

わが子のあゆみ



しちりょうさん ぶ
七両三分の春駒、春駒

お囃子の音に合わせ、全員がゆかたを着て、3年ぶりに「ゆかた DAY」を開催しました。卒業生が「郡上八幡の町を観光客の方と一緒に踊りたい。」「郡上おどりの伝統文化を継承したい。」という願いで生み出された「ゆかた DAY」。地域ボランティアの方によるお囃子の指導、ゆかたの寄付、着付けのおかげで、色とりどりのゆかたの輪と下駄の音がひびき、「郡上おどり」の風景が広がりました。

2023.1
No.474
初春号
第74巻4号

1



「まなびあい・おもいあい・きたえあい」

岐南町立西小学校

住所 〒501-6019
羽島郡岐南町みやまち4-1-19
TEL 058-271-4425
児童数 440名



〔地域の自然や風土〕
岐南町は、岐阜県の南に位置し、北は岐阜市東は各務原市、南は笠松町に隣接しています。中央に位置する岐南インターチェンジは、東西南北の市町や愛知県へ繋がるハブとなっており、交通の便の良さから人口は微増を続けています。
広大な濃尾平野の北部に位置し、なだらかな平坦地です。特産物の「徳田ねぎ」で有名な徳田地区には、長屋門のある名家が多く残っています。



北舎の屋上にも「あ・じ・さ・い」を掲げています。



6月には、50本以上の紫陽花が色とりどりの花を咲かせます。



学校の教育目標

願いをもち 仲間と共に
夢になつて取り組む子
まなびあい・おもいあい・きたえあい

学校のたからもの① あじさい活動

42年前の昭和55年度にPTA役員の発案でスタートした「あじさい活動」は、本校の一番の宝物です。児童会を始めとする様々な学校生活の中で「あ(あいさつ)・じ(じかん)・さ(さいごまで)・い(いつもなかよし)」の言葉をいつも大切にして、児童みんなをさらに磨き上げていこうという校風が脈々と引き継がれています。

平成23年度には、あじさい活動30周年を記念してマスコットキャラクター「サーイちゃん」をつくりました。デザインも名称も子どもたちの発案です。以後、あじさい活動を盛り上げる役目を果たしています。

①「あいさつ」のあ

「おはようございます。」朝、登校してきた子どもたちは、地域の方や友達とあいさつを交わして、学校生活を始めます。新型コロナウイルス対策で中止していた児童会による朝のあいさつ運動も今年度の後期からスタートしました。児童会の子どもたちは、岐南町のキャラクター「ねぎっちょ」に扮してあいさつ運動を盛り上げています。

また、児童会では、運動会に向けて、「授業

のはじめと終わりのあいさつを高めよう」というキャンペーンを実施して、1人1人が大きな声で気持ち良くあいさつができる姿を目指して各学級にはたらきかけて見届けました。あいさつを通して互いを尊重し合う心と態度を養っています。

②「じかん」のじ

時間の大切さが意識できる子の育成を願い、授業、学校行事などで時間を守って行動するよう指導をしています。中休みに外で遊びに夢中になつていても、子どもたちはチャイムを聞いて教室へ向かいます。

③「さいごまで」のさ

何事も最後まで粘り強くやりきる力を付けるため、授業、運動、学級活動、当番活動、掃除、家庭学習など様々な面で「さいごまで」を意識した指導をしています。

④「いつもなかよし」のい

よりよい人間関係を築くことができるよう学級生活を中心とした集団生活の中で、相手を思いやり、意見が合わない場合にはどう折り合いを付けるとよいかを考えるようになっています。

男女関係なく「さん」付けで呼ぶことや、「ぼかぼか言葉」、「よいこと見つけ」を大切にしています。

学校のたからもの② コミュニティスクール

「あじさいっ子」を地域みんなで育てよう」を合言葉に保護者だけでなく、西小学校の地域の方々が、それぞれの立場で安全で楽しい子どもたちの生活を温かく支えています。

①PTA

42年前に「あじさい活動」を生み出したPTA。本部を中心とした活動に加え、各専門委員会による活動を主体的に実施しています。共働き家庭の増加やコロナ禍など時代に応じ「今だからこそ必要な活動」をめざし、変えるべきは変え、柔軟な思考が必要な事を生み出すアクティブなPTAです。昨年度は、町内の小中学校と協議してエプロンの個人所有化を推進し、今年度は、3年ぶりにコロナ禍に合わせた「夏祭り・謎解き忍者村」を7月に開催しました。

②オヤジの会

平成22年に発足し、運動場の整備や池の掃除などで父親パワーを発揮しています。平成26年度夏から夜の学校探検を開催しており、今年度は3年ぶりにコロナ禍でも可能な方法を考案し、7月に「夏祭り・お化け屋敷」を開催しました。

③青少年育成推進委員

西校区青少年育成町民会議を推進する3人の委員が中心となり、平成14年から12月の土曜日に「ふれあいお餅つき大会」を開催していました。当時の推進委員代表の田をお借りして、5年生が田植えや稲刈りの体験をし、収穫した餅米で全校児童がお餅つきを体験し、つきたてのお餅を美味しく味わっていました。中学生ボランティアやPTA、見守り



西小校内のあじさい公園に設置した「あじさい宣言」の看板



児童が考案した西小のマスコットキャラクター「サイちゃん」



校区の人々とふれあう「ふれあいお餅つき大会」(平成24年)



子どもたちが安全に登下校できるように見守ってくださる見守り隊



コロナ対策を万全にして開催した「夏祭り・お化け屋敷」



コロナ対策を万全にして開催した「夏祭り・謎解き忍者村」

隊も交え、1000人以上が体育館で餅をついて食べながら親交を深める一大行事でした。コロナ禍で、中止を余儀なくされていますが、ぜひ復活をと策を練っているところです。

④ボランティア

キャリア教育の一環として、6年生が「ぼくわたしの夢プロジェクト」を実施しています。ゲスト講師を招き、仕事の内容や仕事にける思いを語っていただいています。子どもたちが、将来の夢や希望を描き、努力目標を持つことの大切さを学びます。

登校時の旗当番を子ども会育成会の声掛けにより行うと共に、老人クラブや民生委員による見守り隊が登下校の見守りを行っているなど、見守り隊が登下校の見守りを行っています。

他にも月1回の読み聞かせの時間に各学級でボランティアによる読み聞かせをしていただいたり、花壇や樹木の整美をしていただいたり、家庭科のミシンの授業の支援をしていただいたりしています。

本校は、令和5年7月25日に開校150周年になります。PTAの協力の下、開校150周年記念行事を企画中です。子どもたちが、西小学校の方々と共に150年を迎えたいことを実感できるような一年にしたいと考えています。

「みのかもしりつやまのうせしゅつがいつい」

美濃加茂市立山之上小学校



学校の教育目標

けやきのようになくましい子
けんこうな子 やさしい子 きたえ学ぶ子

住所 〒505-0003
美濃加茂市山之上町3495番地2
TEL 0574-25-2802
児童数 104名



〔地域の自然や風土〕
山之上小学校のシンボルは本校がこの地に校舎を移築した明治17年からあるけやきの木。120年もの間、風雪に耐え、たくましく生きぬくこのけやきの木のように、どんな時代の中でもあってもたくましく生きぬいている子であってほしい。これは、地域全体の願いでもあります。
来年度創立150年を迎える歴史ある学校です。



校舎



地域の方と共に山之上子ども音頭を
下級生に教える6年生児童



山之上子ども園の園児に踊りを教える1年生児童

学校のたからもの① 山之上子ども音頭

「大池ほい、池のまわりに…昭和20年頃に来た曲。終戦直後、何も無いけど、みんなにぎやかに踊り、明るく強く生きていこうという願いのもと生まれ、それ以来ずっと受け継がれています。独自の音頭のある学校なんです、あまり聞いたことがありません。

この曲がかかれば、地域の皆様だって、小学生だって、子ども園の園児だって、山之上で育った3世代、4世代の人たちが、みんな一

緒に口ずさみ、自然に手が動いてしまいます。「校歌より鮮明におぼえとるぞ」地域の方はそう言われます。
今年、運動会やぎふ清流里山公園で行った「ふるさと祭り」で踊りました。
「こんな時代だけど、せめて子どもたちだけは、にぎやかに育ててあげたい」この思いは、これからもずっと受け継がれていくことでしょう。

学校のたからもの② 地域の人々

山之上まちづくり協議会の運営委員会で、委員の方からこんな発言が飛び出しました。「学校の草刈りのことです。いつもは、先生が頑張ってみえます。

考えてみるとPTAでは、草刈り機を持っていない人がいたり、草刈りに慣れていない人がいたりします。それに、保険の問題も起こります。だから、学校からは昔のように気安くお願いができません。

でも、僕たちが卒業した学校です。自分たちの学校なのです。本当は、自分たちでやるべきじゃないのかって、先生の姿を見ていて思いました。皆さん。一緒にやりませんか。」

本校の草刈りをする場所は、ほぼすべてが急斜面。しかも、笹などの堅い植物ばかり。それでも、草刈りに慣れた人ばかりで、見る見る作業は進んでいきます。

最後には命綱をつけて、けやきの根の付近の草刈りをしたり、電灯に絡みついている植物のつるを、フェンスの上に立ちながら取り除いたり…。通常、絶対にこんなところまでできないという場所まで草を取り除いていただけました。

月曜日の朝、登校してきた子どもたちがけやきの木の下で言います。「先生、すごい。向こうの風景が見えるよ。」「草がない…。」

自分たちの学校を大切にしたい。そこに通う子どもたちには、少しでも美しい環境の中で過ごしてほしいと力を尽くせる人々が集まっているまち。グラウンドの片隅にある学校の梨園に、自分の家の梨園だけでも重労働なはずなのに、人知れず世話をしてくださる人のいるまち。道ひとつ挟んだところにある学校の実習田。いつの間にか草刈り作業をしていただける人のいるまち。

地域の人々なしには全く機能しません。まさに、地域の人々こそ、学校の宝物です。



ふるさと祭りで踊る児童と園児



急斜面の草刈りをしてくださる地域の方々



わが町のため、
草刈り部隊が集結

地域の方と田植えを行う
5年生児童



梨の受粉を行う
6年生児童



フェンスに上っての作業

「なかつがわりりつさかしたしゅんがつじつ」

中津川市立坂下小学校



学校の教育目標

ひとりだちできる子になろう

たくましく ゆたかに たしかに

住所 〒509-9232
中津川市坂下2375
TEL 0573-75-2165
児童数 199名



〔地域の自然や風土〕

坂下小学校は中津川市の東部に位置し、旧坂下町立坂下小学校と旧坂下町立上野小学校の校区域からなる学校です。校区には川上川が北から南へ貫流し、木曾川に注いでいます。また、全日本フォークジャンボリーの開催された「椀の湖」や800年以上前からの伝統行事である「花馬祭り」など、豊かな自然と歴史ある文化に囲まれた学校です。



校舎



ハモタ活動で元気に遊んでいる様子

学校のたからもの① 縦割り班遊び『ハモタ』の時間

本校の宝物の1つ目は、子供たちが楽しみにしている縦割り班活動の「ハモタ(ハッピーモーニングタイム)」です。ハモタでは、1年生から6年生までがグループを作り、汗をいっぱいいかしたり、息がぎれるまで走ったりしながら、転がしドッジボールや鬼ごっこを楽しみます。縦割りで楽しく遊ぶ中で、高学年はリーダー・サブリーダーとしての自覚が育ちます。中学年は低学年の手下になれるように自分のことは自分でしようとする自立心が育ちます。低学年は活動をリードしてくれる上級生に憧れを抱きます。何気ない遊びの時間ですが、子供たちの成長にとって大切な時間です。

学校のたからもの② 児童会と一緒に取り組む命の教育

本校の宝物の2つ目は、児童会と一緒に取り組む「命の教育」です。本校ではこれまでも「さかしたタイム」という構成的グループエンカウンターを取り入れた仲間づくりの活動や、動物病院の先生をお招きしての「命の授

学校のたからもの③ 学校生活を豊かにしてください地域の皆さん

本校の宝物の3つ目は、学校生活を豊かにしてください地域の皆さんです。本校では総合的な学習の時間を中心に、「カワゲラウォッチング」や「米作り」、「花馬作り」など、地域の方を講師に招いて学習する機会がたくさんあります。講師の方は学校で子供たちと活動することをとても楽しみにしてください。また、登下校を見守ってください「地域見守り隊」の皆さんも交通安全を指導してくださいだけでなく、「おはよう」と声をかけたり、登下校の様子を見守ってくれてありがとうございます。地域と学校が一緒になって、子供を育てています。

学校のたからもの④ 子供のためにがんばるPTA活動

本校の宝物の4つ目は、多くの保護者が参加するPTA活動です。全会員で実施する資源回収や環境整備作業、本部役員と学年委員が実施するあいさつ運動、家庭教育委員による絵本の読み聞かせ、広報委員による機関誌の発行など、多様な形態で活動を行っています。コロナの影響で学校に集まって実施することが難しくなった学年行事も、「親子で花笠作り」など各家庭で実施できるように実施方法を工夫して取り組んでいます。自分が子供のためにできることを、できる方法で一杯取り組んでいます。

最後に

ここ数年は新型コロナウイルス感染拡大の関係で、願っているような活動ができないことが多くありました。しかし、その時々状況に応じて、坂下小学校の子供たちが、楽しく元気に活動できるように、児童・学校・保護者・地域が一緒になって取り組んでいます。

さかしたタイム(質問じゃんけん)で仲間との仲を深める様子



動物病院の先生による命の授業の様子



カワゲラウォッチングで地域の方と交流する様子



地域の方と一緒に、地域の伝統行事「花馬祭り」の花作りをする様子



児童会のキャンペーンで花にふわふわ言葉を添えて贈り合う児童の様子



PTAによるあいさつ運動の様子



PTAによる絵本の読み聞かせの様子

「木地屋溪谷」
紅葉の美しい溪谷、
秋の散策



「五色ヶ原」
校区内にある中部山岳国定公園



「田上家」地元の古い建造物



「玄関レリーフ」下駄箱上にある地元から採れた木々のレリーフ



「校舎内」白木が美しく、明るい校舎内



「オープンスペース」
地域から寄贈された飛騨家具、生徒の憩いの場



「千光寺:両面宿禰」
呪術廻戦に登場する両面スクナの由来にもなっている
両面宿禰像を持つ千光寺の見学



「農業体験」
地元の特産物である
トマト、宿禰カボチャ、
ほうれん草収穫のお手伝い



「国学院大学との連携」
新設観光まちづくり学部長 西村教授の講義

高山市立丹生川中学校

「たかやましりつにゅうかわちゅうがっこう」

住所 〒506-2123
岐阜県高山市丹生川町方1500番地
TEL 0577-78-1023
生徒数 110名



学校のたからもの①
地域ならではの校舎

（一）木のぬくもりある校舎
昨年、新校舎が完成されました。玄関を入ると、白木が美しく、校内の明るさが目に入ります。香しい木の香りに、右側を見ると、地元で伐採された木々のレリーフが目にとまります。自然豊かな町ならではの学校です。



学校の教育目標

自ら・共に
考える・判断する・行動する

（二）生徒のためのオープンスペース
生徒玄関横のスペースは、明るい陽射しが差し込む、生徒のためのスペースです。寄付された飛騨家具が配置され、休憩時間には、生徒がソファに寝転がり、雑誌を読んだり、談笑したりする姿があります。

学校のたからもの②
特色を生かした郷土学習

（一）学習「にゅうかわ学」
活動の概要とねらい
ふるさとのよさに触れる教育課程を編成し、地域から学ぶ活動を実施しています。その活動を通じ、郷土を愛し誇りに思う心情を養い、郷土のために自分ができることについて考えるというものです。昨年、コロナの対策で、オンライン研修の良さを体験しつつ、生の体験の必要性も見直しました。本年度は地元での体験・対面を重視し編成しました。

●体験重視のカリキュラム
地域の自然や建造物を知り、その保護について考えます。五色ヶ原、木地屋溪谷、地元の歴史遺物において、現地に赴きます。地域のシンボルである乗鞍は、全学年毎年体験します。今年9月、大雨で道が崩落し、急遽、国立公

らっています。6月には、「活力ある地域を実現する」というねらいで、ご講義頂いています。今後、学生たちとの交流も増えていくものと期待しています。

●ふるさと丹生川の魅力を発信する
ふるさと丹生川の魅力を伝えるポスターやパンフレット、CMを作成し、地元や観光客などに発信していきます。

まとめ
生徒の多くは、地域の良さを感じつつも、進学・就職で、地域を出ると戻らない者も複数います。学校のコロナ対応による変更が、「見方を変える」「新たなものを生み出す」といった力を育む機会にできるなら、その力は、地域を発展させる働きに通じているとも思えます。コロナ社会を経験した中学生だからこそ、将来、生まれ育った地域に戻り、新しい発想で貢献してくれると期待しています。

11月号を読んで

記念講演「みんなの学校」が教えてくれたこと
インクルーシブ教育の意味がよく分かりました。横文字だと分かりにくいのですが、どの子も一緒に同じ教室で教育を受けること。中にはじっと授業を受けられない子、暴れ出してしまう子もいる場合もある。その時は、周りの子達が「今、一番困っている子は誰か?」を考え、その子がこれ以上困らないようにするには自分は何をすべきか、一人一人が自分の今の状態を客観的に分析し、行動する力を身に付けること、大人の考えでなく、その場にいる子達が考え、一番良いと思える行動をとれるようにすることがインクルーシブ教育なのかなと思いました。(Sさん)

いろんな学校の違いが分かって、そしてコロナ禍で上手に活動していて面白いと思いました。(Nさん)

私は小学生の時、転勤族だったこともあり、いろいろな小学校へ通いました。今、こうして親となり、わが子のあゆみを拝見しますと、懐かしさが蘇ってきます。家族中が読める愛読書です。(Nさん)

きらり!キッズ!の良さ見つけを拝見して。
うちの学校も同じように良いこと見つけとして、他のお友達の良い所を発表したり、「にこちゃんカード」に記入して、壁がニコニコだらけで埋まるように工夫しているようです。
入学した1年生の頃は、他のお友達と同じ事しか言えなかったのに、今では家で私がやること言うことをちゃんと言葉でフォローして気持ちを伝えてくれます。何気ない一言ですが、本当に成長したなあと感じます。このまま、気持ちを素直に表現できる大人になってくれるといいなあと感じています。(Bさん)

いつも楽しく読んでいます。今号も子どもと一緒に、なぞなぞとクイズを考えることができました。二人で考えてもなかなか思い浮かばないこともあります。ふれあいが出来る良い時間となっています。(Iさん)

岩邑小の「逆さま家族読書」の記事を読みました。何て面白い取り組みだろうとびっくりしました。確かに、親が子に聞かせるのはいつものことですが、その逆をすることは、うちの子にも読んでもらいたいです。(Mさん)

「ふるさとの伝承」を毎回楽しみにしています。
下石小学校では、1年生から地域の地場産業に親しみ、携わる方々の思いや願いを知ることで、地域の一員として地元の伝統文化に関心を持てる有意義な学習だと思いました。
日本の伝統文化に関心を持ち、国際社会に生きる日本人としての自覚を養いながら、習得した知識や知恵・技を生かし、力強く生き抜いてほしいと思いました。
また、表紙の子どもさんたちの笑顔がとても良かったです。先生方と未来を担う子どもたちの笑顔が溢れる学校なのだろうなと思いました。(Hさん)

わが家の約束の文章で、学校は頑張るところではない、勉強・運動・遊びを楽しむところです。毎朝「楽しんでおいで」と見送っていると書いてありました。私は、小学生の息子に「行ってらっしゃい、今日も頑張ってください」と声を掛けていました。この言葉は、励まし・応援をするという意味だったのですが…。子どもにとって、毎日の「頑張ってください」は、プレッシャーや負担になり、楽しくなかったのでは…と気がつきました。ちょっとしたことで、「行ってらっしゃい、楽しんできてね」の声掛けに変更しました。(Iさん)

もくじ わが子のあゆみ 2023.1 No.474 初春号

- 表紙 郡上市立八幡中学校
- 1 学校のたからもの
岐南町立西小学校/美濃加茂市立山之上小学校
中津川市立坂下小学校/高山市立丹生川中学校
 - 11 特集 「続・親子で サイエンス!」
 - 17 みんなで家庭教育!
岐阜県環境生活部環境生活政策課
 - 18 先生!ありがとう!
保護者から先生へ贈る感謝の400字メッセージ
 - 19 「多様性尊重の教育⑦」
みんな、いっしょに 安田 和夫
 - 21 保健室ノート 竹中 ゆかり
 - 23 私の先生⑥ 奥村 尚浩
 - 25 わが家の宝物 渡邊 晴洋
 - 26 リレーエッセイ② 毛利 理恵
 - 27 子育て半生記 酒井 詩織
 - 29 楽しい読み聞かせ② 山県市立伊自良北小学校PTA
 - 31 親の背中⑩ 高木 治男・杉下 純子
 - 33 私が出会った1冊の本【続57】
小林 有加・安江 美咲
 - 35 子の思い 弥吉 美佳・久保田 華帆・草間 新菜
親の願い 松岡 麻美・山田 喜美子
教育の窓 市川 陽一・古田 斉
 - 40 話そう!語ろう!わが家の約束 北原 茂昭・岡田 正男
 - 41 親子ではてな
 - 42 お試しクッキング
岐阜県学校栄養士会・(公財)岐阜県学校給食会
 - 43 ふるさとの伝承 可児市立旭小学校
 - 45 きらり!キッズ! 中津川市立福岡小学校
 - 47 夢中!熱中!我がが部活 高山市立国府中学校
 - 49 私たちのPTA 岐阜市立早田小学校PTA

三井住友海上は、持続可能な社会の実現に取り組みます

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsで 人と自然を守る

気候変動の緩和と適応に貢献

脱炭素社会の実現を支援

再エネ支援サービスや再エネ等事業者のリスクを総合的に補償

緩和

脱炭素のための取り組み

自然資本を活用したCO2吸収取り組み

インドネシア熱帯林再生プロジェクトやアジアでのマングローブ植林の実施

気候変動への取り組み

自然災害の激甚化・頻発化への備えを支援し、ネットゼロに向け、ステークホルダーとともに脱炭素社会の実現に貢献していきます。

防災・減災に向けたBCP対策支援

台風・豪雨による被害予測、リアルタイムなリスク可視化や、避難支援アプリの提供

適応

防災・減災のための取り組み

気候変動リスクのコンサルティング

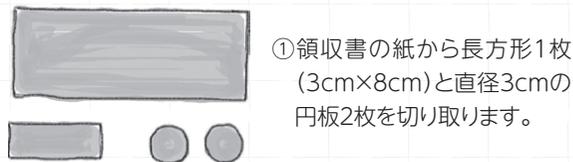
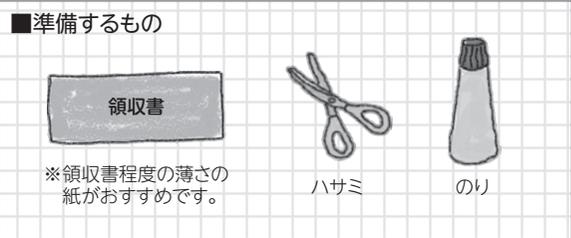
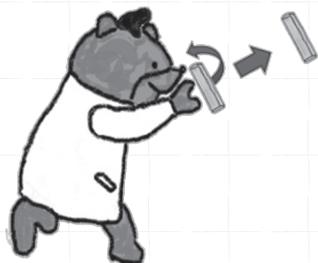
気候変動による洪水頻度変化予測マップ、TCFD向け自然災害影響定量評価サービスの提供

MS&AD 三井住友海上

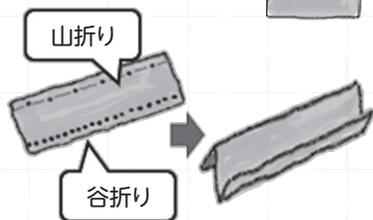
三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会*をめざします。
*外部環境にシなやかに対応する、持続可能な社会



実験2 「なぜ、落ちてこないの？」

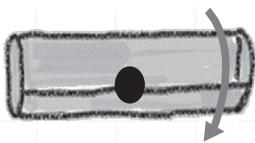


②切り取った長方形の紙を3~5mmの幅で一方を山折りに、もう一方を谷折りにして本体を作ります。

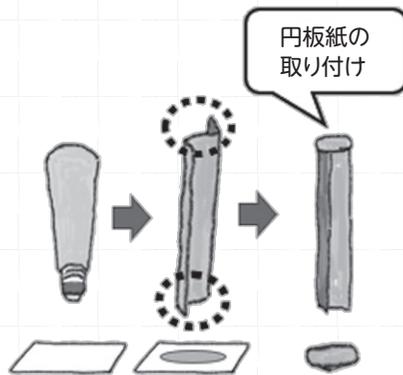


③他の紙にのりを出し、②で作った本体の点線円の部分をそと付けてのりをのせ、2枚の円板紙を取り付けます。

④黒丸の部分を親指と人差し指で持ち、逆回転をかけるように押し出して指を離します。



※階段の上から離すと面白いよ!



- Q-1 長い間フワフワと飛ぶようにするためにはどうすればいいかな?
Q-2 紙の大きさや紙質、折る幅を変えるとどうなるのかな?

★キーワード【 マグナス効果 】【 作用反作用の法則 】



「速度を変えてみる」
白山小学校PTA 尾田有華

娘2人が色々なバージョンで、長方形に切った紙に円板を貼り実験してみました。

紙の素材を普通紙や薄い紙に変えてみた時は、あまり変化がなく、紙の折り幅や大きさを変えてみると、折り幅が小さく大きさを小さくすると、回転が早くなりました。

逆に折り幅と大きさが大きくなると、回転がゆっくりになり、落ちる速度がゆっくりに感じました。ですが、早く回転している時の方がふわふわ飛んでいるように見えました。

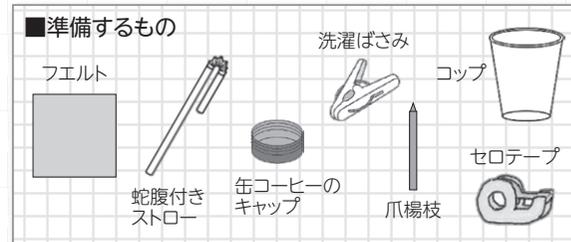
紙一つで色々な発見があり、子どもたちと楽しく実験することが出来ました。

特集 「続・親子で サイエンス!!」

岐阜県PTA連合会では、今年度の重点の1つとして、家庭教育の充実(コミュニケーションを大切にする)を掲げています。学校での出来事や新聞・テレビで見たニュース、身の回りにある疑問等を、少し意識しながらとりあげ、親子で取り組んだり、考えを伝えあったりしてみる。そんな些細なことの積み重ねが、家庭内のコミュニケーションを深めるとともに、身の回りのことに対する興味や関心を、相手の話を聞き自分の考えを深めようとする意欲を高めます。親子で一緒に考え、より良いものを目指して改善していくといった「主体的・対話的な学び」に、ぜひ親子で挑戦してみてください。

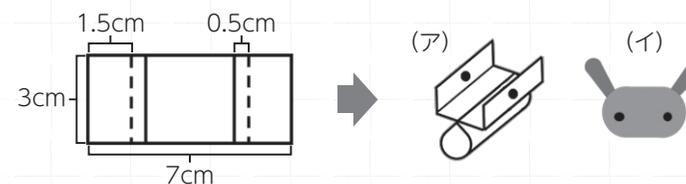


実験1 「なぜ、小鳥は動き続けるの？」

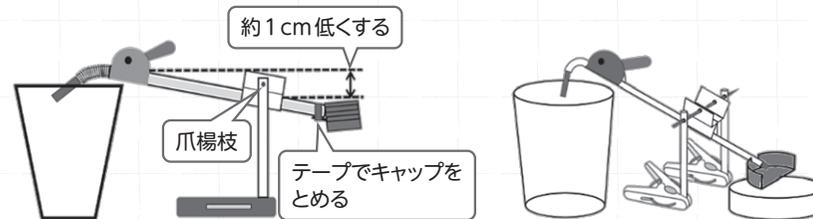
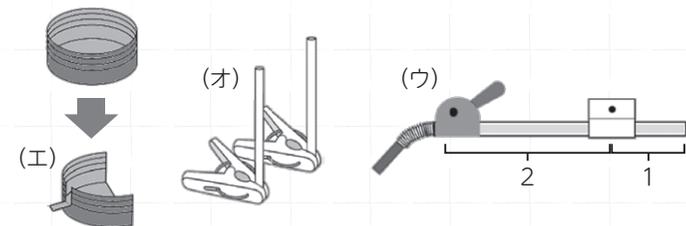


①蛇腹付きストローの先端部分を切ったものを用意し、中にフェルト(長さ6cm幅0.5cm)を竹串などで通します。

②少し厚めの紙(カレンダー等)に「(ア)支点」と「(イ)鳥の顔」を作り、(ウ)(2:1の位置)のようにストローに取り付けます。



③(エ)水受け(缶コーヒーのキャップを半分に切り、切れ目を入れた物)、(オ)足2本(8~10cmのストローを洗濯ばさみで挟んだ物)を用意し、下図のように組み立て、胴体のフェルト全体に水を含ませてから、下図のようにセットします。

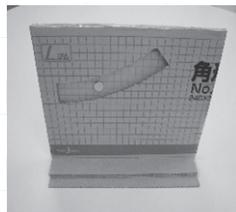


④水受けにたまった水の重みで鳥が傾き、水がこぼれると元に戻ります。この動きが続くように、支点の位置と水受けの角度を調整してください。

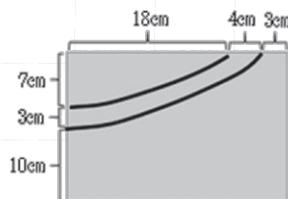
- Q-1 なぜ、水受けに水がたまるんだろう?
Q-2 フェルトの幅を変えると? ティッシュペーパーや毛糸ではだめなのだろうか?

★キーワード【 毛細管現象 】

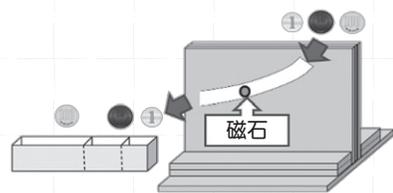
実験4 「なぜ、硬貨によって 落ちる距離が変わるの？」



②板(中)に硬貨の通り道となるスロープ(3cm 間隔の2本の線)を描き、線に沿って切り取り ます。



④板(裏)に③のア・イをのり付けした 後、③の窓付き板(表)を両面テープで 貼り付けます。



※図のような仕切を入れた箱を用意すると面白いよ。



- Q-1 硬貨は鉄じゃないのに、なぜ磁石に影響されるの？
Q-2 磁石の位置やスロープの角度を変えるとどうなるのかな？

★キーワード【 渦電流 】【 電磁誘導 】

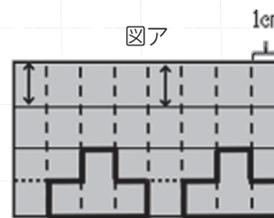


「これ電磁石なの？」
長森北小学校PTA 長屋真琴
「もう一回やってみよう一回やってみよう一回やってみよう」可愛い弟にせがまれるまでもなく、小六長男は首を傾げながら、もう一度丁寧に百円玉をその装置にセットして、転がる様子を二人で見守りました。硬貨は一枚の段ボールに挟まれた隙間を転がって外に出て来ますが、途中の強力な磁石の側を通り過ぎると、なぜかスピードが落ちるのです。長男は知っています。金属のお金の材料は磁石につかないやつなのに、別の磁石を百円玉に近づけてもくっついて来ることはありません。長男は磁石のない隙間を転がしてみましたが、磁石がなければ百円玉はスピードを落とす事なく、そのまま飛び出してきました。五百円玉も五十円玉も十円玉も一円玉も、磁石に挟まれた場合には必ずスピードが落ちるのです。遠くから眺めていた長女が動く！「これ電磁石なの？」忘れかけていたこの世界のどうして？に、子どもたちの目を通して気付かされます。

実験3 「なぜ、風車は回るの？」



③図アのように空箱を切り取り、縦横1cm 間隔の線を引きます。※凸の部分は切り取り、破線は山折り、点線は谷折り、 \longleftrightarrow の部分には切り込みを入れ、筒状にしてセロテープでとめ、表面を黒マジックで塗ります。また、図イのように、縦1cm横3cmの紙を用意し、中央にまち針を貼り、図ウのように筒の切り込みに差し込んだら風車を乗せます。

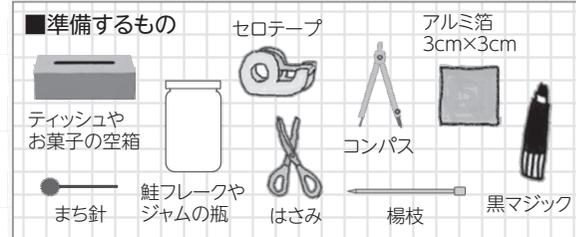


- Q-1 風もないのに、なぜ風車は回るの？
Q-2 筒の色を変えると周り方は変わる？

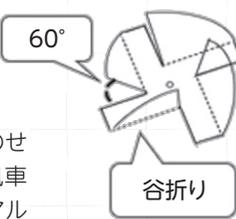
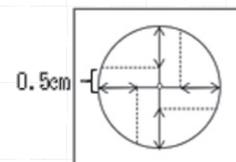
★キーワード【 放射・伝導・対流 】



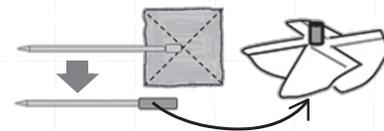
「なぜ、風車は回るの？」
蘇南中学校PTA 伊藤英生
私は子どもと一緒に、空き箱、ジャムの瓶、アルミ箔、まち針を準備して作ってみました。
日光に当たると、瓶の中は風が遮られているはずなのに、風車が回りだしてビックリです。
もっとよく回るようにするには？と私が尋ねると、子どもは色々工夫を凝らしはじめました。
アルミ箔で作った軸の形状を整えたり、風車の羽の角度を調整したりと、親子で実験をしながら、一緒に考えることができ、楽しい時間を過ごすことができました。



①紙に右図のように半径2cmの円を描き、中心線から0.5cm幅のところに点線を引きます。円を切り取り、 \longleftrightarrow の部分には切り込みを入れ、点線の部分は角度が60°くらいになるように谷折ります。



②アルミ箔の中心に楊枝のお尻をのせ巻き付けます。楊枝の先で①の風車の中心に穴をあけ、巻き付けたアルミ箔を差し込みます※アルミ箔に穴を開けないよう注意しましょう。



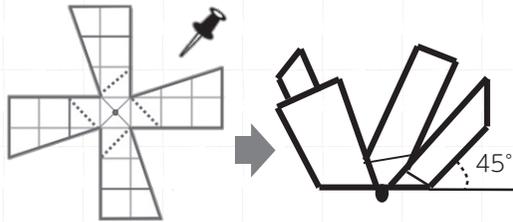
④4~5分日光に当てると ゆっくり回り始めます。

※回らない…アルミ箔の筒や針が傾いていませんか？ アルミ箔に穴が開いていませんか？ 少し揺らしてみましょ。

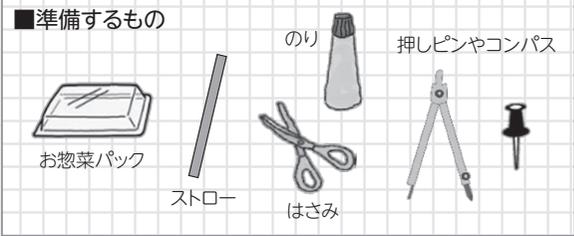
実験6 「なぜ、コマは飛び上がるの？」



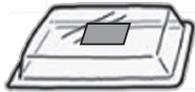
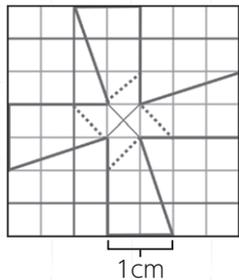
②下図のように、十字の形に切り取り、真ん中に押しピンなどで穴を開けます。(飛び出たところがコマの軸になります。)



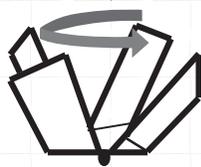
③点線の部分を谷折りにし、羽根が45°くらい持ち上がるようにしてコマを作ります。のり付けした紙は水で濡らして取り除きます。



①紙に0.5cmのマス目を作り、図のようなコマを書き、お惣菜パックの平らなところにのりで貼り付けます。



④上からストローで息を吹きかけるとコマが回転し始めます。良く回ったところで息を止めるとコマが飛び上がります。



※飛び上がったコマが目当たらないように注意してね。



- Q-1 息を止めるとなぜコマが飛び上がるの？
 Q-2 羽の大きさや角度、ひねり具合、羽の形などを変えてみよう。誰のが一番よく飛び上がるかな？

★キーワード【 浮力 】【 作用・反作用の法則 】

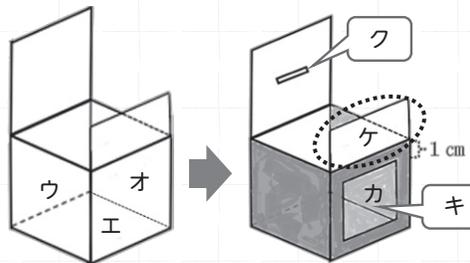


なぜコマは飛び上がるの？
 国府小学校PTA 堀祥岳
 夕食後のリビングで実験しました。ツルツルの床では難しく、布を敷いて再チャレンジ。次女の吹く風でコマは回転しますが、なかなか飛び上がりません。保育園児の三女も試みますが上手いはず、見かねた母が挑戦しますが、やはり飛びません。そこへ吹奏楽部の長女が参戦。強い風を「フーン」と送ると回転したコマがフワッと飛び上がりました。太いストローに換えるとさらに良く飛びました。二女は「私も飛ばしたい」と奮気を出して頑張ります。羽根の角度は45度がベスト。重さは軽い素材のほうが飛びました。

実験5 「なぜ、入れた硬貨が消えるの？」



②①で切り取った図アの内側(ウ・エ・オ)に色紙を、外側全体に他の色紙を貼ります。また、カの部分(キ)を、天井部分には硬貨投入口(ク)を作ります。

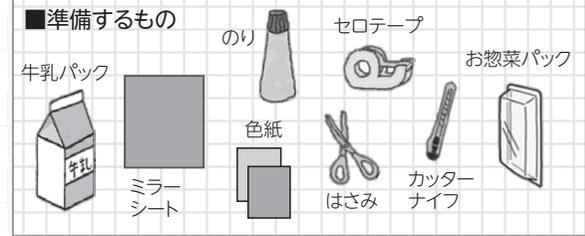


- Q-1 どうして硬貨が消えるの？
 Q-2 鏡に物を貼ると、どんなふうに見えるの？

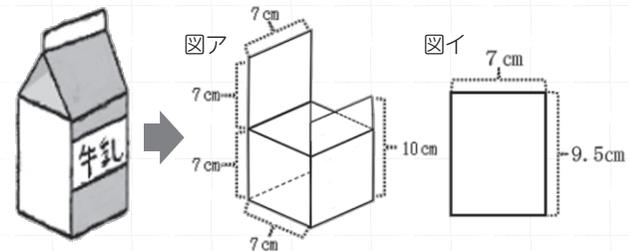
★キーワード【 反射 】【 光の性質 】



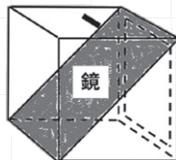
「入れた硬貨が消える不思議な貯金箱」
 穂積中学校PTA 佐久間美里
 長男が牛乳パック、ミラーシートを使用して貯金箱をつくりました。長男と長女で、百円玉をこの貯金箱に入れてみて、次男に言いました。次男が、貯金箱に百円玉を入れると、百円玉が消えてしまいました。次男は驚いて、貯金箱を不思議そうに眺めて、長男に「なんで消えるの？」と聞いていました。そこで、長男が貯金箱の中を見せながら、「この中に鏡が入っていると教えてあげていました。次男は、貯金箱の下の部分にシールを貼ってみました。すると、シールが貯金箱の側面にも映っていて、ますます貯金箱に興味が出てきたみたいですね。次男が、貯金箱をのぞいてみると、自分の顔が貯金箱の上に映っており、驚いていました。子どもたちと鏡の性質を学ぶことができ、楽しい時間を過ごすことができました。



①牛乳パックの底側を図アのように切り取ります。残った箱の側面から図イの板を切り取ります。



③①の図イの板にミラーシート(100均)をのり付けし、右図のように窓の側に鏡を向けて置き、②の点線円(ケ)の部分(キ)を折り曲げ、テープで固定する。



※鏡に物を貼ると箱の中に浮かんでいるように見えるよ。貼る物の形を工夫してみよう。【例】



- ①消しゴム(縦横1.5cm、高さ0.7cm)
 ②各面にカッターで溝を掘り
 ③溝以外に色を塗り、鏡に貼ります。

家庭で子どもに教えたことや、育みたい力など、家庭教育のヒントになる情報をお伝えします！！

みんなで家庭教育!

情報化時代における豊かな子育てとは



因でテレビの前に鎮座する人が増えたように思います。また、「音楽を流し、それを同時に録音できたらいいな。」と、ダブルデッキの機能をもつラジカセなるものが出てきました。これもまた衝撃的でした。「こんなものがあるといいな。」と願ったことが一つ一つ現実のものになっていく。私の成長期は、まさにそんな時代でした。

1 子どもと情を共有し、感性を育む!

「真つ赤な夕焼けは、今日一日一生懸命頑張ったご褒美。」「お月様に浮かぶうさぎさんが、お餅をついているね。」と、美しいものを美しいと感じ、それを親子で共有することは、子どもの感性を豊かにすることにつながります。情を共有することが親子の結びつきを強くし、優しい心を育みます。

2 適度な壁を作る!

人生は、いつも順風満帆ではありません。つらいことや苦しい体験も時には必要です。「これは越えられないだろう。」と思ったことをやり終えた後に味わう何とも言えない爽快感が、人の感性を豊かにするともいえます。努力し苦勞し、それを一つ一つ乗り越えることで、たくましさや身に付きませましよう!

3 子どもの立ち直る力を信じて!

子どもは、がんばろうとします。期待に応えようとします。でも、時には嘘をつくことがあります。そんな子ども達の「次はがんばろう。」「次こそよくなりた。」という立ち直る力を信じて応援することです。親を敬う子になります。

今を生きる子ども達は、生まれた時から情報機器に囲まれています。扱っても実にも巧みです。町を歩く若者の姿や周囲の子ども達の手元を見ながら、IT時代の到来を切実に感じています。「操作が複雑で私にはよくわからないわ。」

4 その行為の裏にある値打ちを認める!

テストでよい点数を取った日、素晴らしい行為をしたりと、毎日の生活の中で、子どもは様々な頑張っています。そんな時は、「○点」という点数の素晴らしさ(結果)だけではなく、こつこつと取り組みだり諦めず追求したりと、その行為の裏にある値打ちを大いに褒めてあげましよう。粘り強い子に育ちます。

「子どもの方がよく知っている。」時折、親世代からこんな声が聞こえてきます。子ども達を情報の危険から守るために、「フィルタリングをかける」等、対策を取っておられることで

5 子どもの立ち直る力を信じて!

子どもは、がんばろうとします。期待に応えようとします。でも、時には嘘をつくことがあります。そんな子ども達の「次はがんばろう。」「次こそよくなりた。」という立ち直る力を信じて応援することです。親を敬う子になります。

6 思うようにはならないと腹を括ること!

可成事務所 振興防災課 家庭教育推進専門職 安田早由里

先生！ありがとうございます！

保護者から先生へ贈る感謝の四〇〇字メッセージ

先生、ありがとうございます

早いもので、わが子が小学校へ入学し、4年が経ちました。入学した当初は、「学校生活を楽しく過ごせるかな?」と心配の日々でしたが今では、とても元気に通学し、家では学校の出来事を楽しそうに話している姿を見ることが、私にとって貴重で幸せな時間です。

入学したばかりのまだ幼かった子どもが4年生になり、だんだん大人へと近づいていく姿は、親である私にとって非常に嬉しいものであり、頼もしさも感じております。それもひとえに先生方のご指導があったからだと深く感謝しております。

しかし、先生方を取り巻く環境は、年々厳しく変化していると思われまます。保護者の対応、過度に求められる児童の安全対策、学習以外の指導、労働環境、法改正。保護者も一緒に問題の解決に当たるべき事項も、先生方に任せっきりで、ひとりの親として、深く反省しております。今後は、ボランティアやPTA活動で、お力添え出来ればと考えております。

子供が成長する一番大切な時期に先生方に出会えたこと、指導していただけたことに心から感謝しております。また子ども達が大人になっても先生方と過ごした楽しい思い出は、ずっと心に残ることでしよう。

これからもお体を大切に、お元気で活躍されますよう、お祈り申し上げます。

(匿名)

information

■作品を募集しています。

イラスト・なぜなぜ・逆さ言葉などの作品を募集しています。イラスト・絵手紙はハガキの裏面に描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所、学年と氏名を表面に記載してください。なぜなぜ・逆さ言葉は「親子ではてな」の回答とともにお願いします。

宛先はいずれも

〒500-8816 岐阜市菅原町3-3
岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで

採用の方にはお礼をさしあげます。

■本誌の購読について

本誌は年間5回発行(7・9・11・1・3月)されます。年度初め(4~5月)と7月の2回、各学校PTAを通じて購読募集を行います(1冊200円、5冊1,000円)が、年度途中でもお求めいただけます。学校または県PTA事務局へお問い合わせください。

■3月号のお知らせ(予告)

特集=発達障がいの子と共生(抜粋)/表紙=揖斐小/学校のたからもの=養正小・陵南小・長良西小・日新中/わが家の宝物=白鳥中/リレーエッセイ/みんなで家庭教育/みんな、いっしょに/保健室ノート=真桑小/私の先生=蘇原小/子育て半生記=大井第二小/楽しい読み聞かせ=小坂小/親の背中=中小・上石津中/1冊の本=坂本小・藍川東中/わが家の約束=堀津小・登龍中/子の思い=桜ヶ丘小・北方小・西中(美濃加茂)/親の願い=笠原小・荘川中/教育の窓=附属小中・関ヶ原中/先生!ありがとうございます! =泉中/お話しクッキング/ふるさとの伝承=緑苑小/きらり!キッズ! =桜尾小/夢中!熱中!我らが部活=北中(大垣)/私たちのPTA=明宝中

若い先生方の躍動に期待するー子ども達とともに歩むー

岐阜聖徳学園大学教育学部特別支援教育専修 教授 安田 和夫

「あの恵先生？」

先日、ある小学校を訪問したときのことです。教室に入ると、一人一人が課題追究している時間帯でした。そのクラスにも、様々な困難を抱える子ども達が複数いて、課題解決の見通しが持てず、困っている様子がみられました。そこで、担任の先生は、その一人一人に対して、ヒントやモデルを具体的に示しながら助言をして回っています。その関わり方がとても自然で、子どもとの間に信頼関係が感じられました。

その後の校長室でのケース検討会でも、担任の先生の印象は変わりませんでした。若い先生ですが、一人一人への洞察力が確かで、支援を必要としている児童だけでなく、学級全員のことをよく見ている先生だと思いました。その時、先生の名前を見て、あることに気づきました。私が、大学教員になって間もないとき、県教育委員会のある巡回指導事業で、加茂郡のある中学校を訪問した際に出会った先生と同名同姓だった

のです。しかし、同一人物か確認が持てないまま、会が終わりと、玄関に進みました。

帰り際、「安田先生、私のこと覚えておられますか。」と、声をかけてくれました。そうです。私の知っている「恵先生」だったのです。久しぶりの再会にとっても感激しました。

若い先生が特別支援学級を担任すること

初めてお会いした学校で恵先生は、特別支援学級の担任でした。担当するのは、男子生徒一人。その男子生徒は、真面目でとても素直な子ですが、当時、思春期を迎え、異性との距離感や関わり方についてとまどっているようでした。まだまだ教育経験の少ない恵先生は、この男子生徒をどのように導いていくとよいのか、どう向き合ったらいいのか日々悩んでおられるようでした。

幸いに、その中学校の校長先生は、日頃から特別支援学級のことに関心を寄せ、毎日、様子を見ながらプリント、教科ごとに作成された手書きの指導計画、生徒の行動記録などもきちんとファイリングされてまとめられていました。身近に相談できる先輩がいるということ、心は、心の支えでした。

ただ、その吉田先生は、私が赴任後の夏すぎに、病気が見つかり、翌年の春には亡き人になりました。亡くなられる数週間前、吉田先生から私宛に、一本の電話がありました。「頼まれていた卒業文集の原稿がまだ書けないでいます。あの子達の卒業後の日々が幸せなものであることを心から願っています。調子がよくなったら書きたいと思っています。」との電話でした。重い病いの床から、卒業生一人一人のことを思い続けていただいているという吉田先生の崇高な思いにふれて、涙が止まりませんでした。

その原稿は届かないまま、吉田先生は亡くなられました。吉田先生の告別式に教え子達と共に参列した私は、「障害のある子ども達とともに歩いていく」という決意を新たにしました。

来ていただいているようでした。若い恵先生にとって、校長先生と、頻繁に、特別支援学級や男子生徒のことについて、情報共有をしたり、助言をしていただけたりすることで、どれだけ安心できたことでしょうか。

また、男子生徒のお母さんも協力的で、思春期前期に入ったわが子の成長をどう支えていくとよいか、恵先生と一緒に考えていただける関係がありました。

最近、恵先生のように、若手の先生が、特別支援学級を担任することが増えてきましたし、文部科学省の方針としても、若いうちに、特別支援学級担任など、特別支援教育に複数年携わることを推奨しています。私は、手放しで歓迎することは思いません。確かに、教員の専門性を高めるという意味では、メリットもあるかもしれませんが、特別支援学級や通級指導教室対象の児童生徒が増え続けている中で、担当する教員の候補者が枯渇している課題の解決策になるかもしれません。しかし、様々な困難を抱える子ども本人のた

がんばれ 若手の先生!!

最近、若手の先生方の躍動に、心踊る瞬間があります。

昼休みに、子どもと共に汗を流して鬼ごっこをしている先生。タブレットを駆使して多様な子ども達の意見を画面に集約し学びあいを進める先生。体育のポートボールの授業で、今日の作戦を体育館のスクリーンに投影し、わかりやすく提示している先生。

先生自身が、自分の得意な部分を生かして学級経営を進めています。どうか、管理職の先生方や同僚の先生方の助言や支えに感謝しつつ、思う存分、子ども達の笑顔につながる取組を進めてください。子ども達の多様性を受け止め、しなやかに対応していくことができる力が備わっている「あなた」に期待しています。そして、応援しています。

めになっていっているのか、子どもの幸せを願う特別支援学級入級などの決断に至った保護者の切実な思いに伝えられているのか、これこそが大切な視点だからです。

私は、若い先生方に任せるには、一定の条件が必要だと思っています。それは、管理職や同僚の理解と、身近な相談者・指導者の存在です。たしかに、若い先生方は、パワーもしなやかさもありません。伸びしろもいっぱいです。しかし、特別支援学級や通級指導教室で教えるには、子どもの特性を理解し、一人一人の教育的ニーズに応じた意図的な指導支援を進めていく必要があります。また、少人数であることは、子ども集団の力を借りることができないということでもあり、子どもやその保護者の皆さんとの人間関係もひとたび崩れてしまうと、修復が難しいという側面もあります。

だからこそ、校長先生をはじめ、管理職の先生方のバックアップは不可欠なのです。その意味で、恵先生はとっても幸せでした。また、同僚の先生方も、恵先生の抱えて

いる悩みに応えて、協力してくれることになったのです。男性の先生が、異性との距離感の取り方や、男の子の第二次性徴について個別指導をかってでてくれたのです。校長先生が、県事業を活用して、私を複数回お招きいただいたことも、恵先生のお役に少しは立てたのではないかと思います。

40年前の私が抱いた決意

実は、私自身、40数年前にさかのぼりますが、大垣南中学校の特別支援学級（当時は「福祉学級」と呼んでました）担任から教員人生が始まりました。当時、初任から特別支援学級を担任することは極めて珍しいことでした。

ただ、不安な私にとってうれしかったのは、同僚の支えでした。なかでも、特別支援学級担任の前任者である吉田先生が校内に残っておられ、様々な助言や励ましのことをばをいただけたことはとても力強く思いました。引き継ぎも丁寧にしてください、使用していた教材教具、手作りの学習プ



朝の排便は元気のバロメーター

私たちは答えます。しかし、その後、排便が起ると痛みがなくなり、元気に活動できるようになっていきます。「冷え」だけでなくむしろ「排便」が腹痛発症の重要なカギになっているようです。

を無理に食べさせる指導もしていません。そのため、家庭で食べる野菜で子どもたちの体は作られており、野菜嫌いの子は、食物繊維が不足しているのではないのでしょうか。

快便には、水分・食物繊維・良質な腸内細菌・ぜん動運動が必要とされています。しかし、水分は夏は汗となっていて出てしまい、冬は寒さのために水分を摂りたがらないので、不足しがちになっていると考えられます。また、現在、学校給食では食物繊維を多く含む野菜は提供されていません。苦手な食材

を無理に食べさせながら5年生は3年ぶりに、6年生は昨年引き続き1泊2日の宿泊研修へ行くことができました。子どもたちと生活をともにしながら、分かったことがあります。研修では、両学年ともたくさん外で活動をしました。みんなヘトヘトに疲れて宿に着き、夕食をお腹いっぱい食べました。そして、決められた就寝時刻には、熟睡し

「先生、お腹が痛いのでペットボトルを貸してください。」

暑い夏も寒い冬も、そう訴えて子どもたちが保健室にやってきました。ペットボトルは、簡易湯たんぽです。子どもたちは、それを服の上からお腹に当てて痛みを癒しています。問診をする時、夏も冬も「冷えたから」と、子ども

ていました。翌朝、身支度を整えて朝食会場に現れた子どもたちは、みんな元気いっぱいでした。そして、朝食をしっかりと食べて次の活動に張り切って出かけていきました。普段不調を訴えやすい子どもも元気に過ごし、全員2日間の研修を笑顔いっぱいでもごすごすことができました。外でたくさん体を動かして、夕食をしっかりと食べて22時には寝たことで、朝食をたくさん食べることができ、良好な体調で充実した1日を過ごすことができたのです。理想的な生活リズムが子どもたちの健康に大きく関わっていることが分かりました。

朝食は、その日活動する午前中のエネルギーになります。学校の授業のほとんどが午前中です。少し時間に余裕をもたせて起床し、朝食をしっかりと

食べることで、学習に集中でき、元気

いっぱい運動ができます。腸のぜん動運動も起こって排便を促すので、朝から身も心もスッキリします。心と体に余裕ができると、仲間との関係も良好になります。「学校が楽しい！」と感じてくれるはずです。

朝食をしっかりと食べるためには、早起きをして少し活動する時間が必要です。早起きをするためには、早く寝なければなりません。早寝をするためには、外で運動をするのがよいでしょう。本校では、できるだけ外で日光を浴びて運動をするように、外遊びを推奨しています。ご家庭でも、体を動かす遊びをすすめていただけるとよいと思います。ゲームや動画視聴をして、1日のほとんどを室内で過ごすことは避け

たいものです。

何でもバランスよく食べ、外で元気に運動し、睡眠時間を確保して規則正しく生活すれば、朝、自然に排便が起こります。朝排便は、元気に過ごすための準備ができていくかを知るバロメーターになるのではないかと思います。これは、生涯を通じて心身ともに健康に生きるために必要な習慣となります。すべての子に身に付けてほしい習慣です。今後も、子どもたちの健全な成長のために、学校と家庭、地域がひとつになって、子どもたちに語り掛け、見守っていききたいと思います。



あの頃の先生方から学ぶこと

瑞浪市立稲津小学校

奥村 尚浩

私が時々ふと思い出すのは、中学校時代の先生方です。私の通った中学校は、全校生徒が約1700人、各学年が11〜16学級あるという「超マンモス校」でした。いわゆる「校内暴力」が広がり、全国的に学校が荒れていた時代です。母校も大変な状況にあり、落ち着かない日々が続いていました。その頃の先生方です。

教員となって、あの頃の先生方は毎日どんな思いで私たちに向かっていたらよかったのだろうかと考えます。教師として、相当なご苦労があったに違いありません。しかし、そのような状況でも、生徒一人一人に居場所を作り、何とか学校生活が正常に進むよう、働きかけてくださった先生方であったことを思い出します。

そのような先生方の中であって、ある年の担任の先生は、一味違う先生でした。その先生は、4月の学級開きで、「安心感のある学級」を目指すと言われ、学級目標もこれにすると、一方的に？決めてしまわれました。半ば強引な方法だったのですが、その後の1年間、私たちは、「安心感のある学級」とは何かを様々な場面で考えさせられることになるのでした。

エピソードはいろいろあります。体育大会の応援練習では、その先生は生徒の応援団長と並んで集団の前に立ち、応援団長以上に大きな声を張り上げていました。学級でトラブルがあり、人として許されないことがあると、烈火のごとく怒り、大声で叱ることが多々ありました。端的に言えば、昭和の熱血先生スタイルなのですが、これらは、大変な学校の状況の中でも、「人として喜怒哀楽を表すことに遠慮しなくてもいい」「安心して自分の気持ちを出していい」ということを自らの姿で示し、安心感を与えてくださったのだと思っています。

一番のエピソードは、文化祭でのことです。学級で合唱を発表することになり、練習を始めました。生徒何人かの練習に向かう意欲は低く、学級全体に白けた雰囲気広がっていました。リーダーの子のいらだちが増していきました。しかし、その時の先生の指導は、「みんなて頑張って歌おう」ではなく、「なぜ、歌わない子の気持ちに分からんのか」という強い指導でした。当然リーダーの子は反発し、しばらく学級は混乱しました。自分も正直、なぜ頑張っている子へ味方してくれないのかと、理不尽にも思いました。しかし先生は、意欲の低い仲間にはひたすら寄り添い、自ら大きな声で歌い、その子を巻き込んでいこうとされ続けました。指導される中で言われた、「ただだって、悩みながら生きているんだぞ。」という一言が今も忘れられません。その一言があつてから、リーダーの気持ちもおさまり、学級の雰囲気が変わっていき、最後には合唱発表は成功しました。このエピソードを振り返ると、「安心感のある学級」の神髄は、「だれもが認められている学級」のことだったのかと思っています。「本当に仲間全員を大切にしているのか」と問いかけられたのだと思っています。

この価値観を植え付けてもらったことが、その後の教員としての生き方に大きく影響していることは間違いありません。とは言うものの、先生の授業は毎回のようには脱線していません。先生がおもしろいことを1時間中しゃべり尽くすという、今ではたぶん許されない授業でしたが、笑いが絶えない授業でした。こんなところにも安心感の要素があったのかもしれない。

これら多くのエピソードが、自分のその後の生活の中で、「苦しくとも、粘り強く、くじけないで、信念を貫き進め」と背中を押してくれていますし、「柔らかな頭をもち、時には、いい加減（良い加減）でいくことも必要だ」と教えてもらっている気がします。これらはきっと担任の先生をはじめ、「あの頃の先生方」から受け継いでいるのだと思っています。改めて、あの頃の先生方に、感謝します。

わが家の宝物

家族の時間

私の宝物は、家族と過ごす時間です。私と妻は共に仕事をしています。二人で休日・祝日問わず、早朝から夜遅くまで仕事をしているため、家族で過ごす時間があまりありません。

しかし、夫婦共に休みが同じ日になる時には、日ごろ子どもたちにつらく寂しい思いをさせている反動から、飛びっきりの家族サービス（家族の時間）をしています。世間一般では、当たり前のことですが、我が家にとっては、とても貴重で大切な時間になります。

その家族サービスの中で、私が重要視していることは「会話」です。日々、仕事などに追われ、子どもたちとの会話がままならない状態なので、家族サービスなどを行っている時は、子どもたちとたくさん会話するように心掛けています。

子どもたちは、学校で楽しかったことやうれしかったこと、友だちのこと、失敗したこと、勉強のこと、先生に褒められたことなど色々話してくれます。年々、子どもたちの話す内容が大きく変わり、自分の思いなどをしっかりと言うようになってきました。これは、子どもたちが日々の暮らしの中で様々な経験を積み育まれたことで、心や体、気持ちなどが大きく成長しているのだと思います。

こうした子どもたちの成長は、私たち夫婦の力だけではできなかったことです。学校の先生や地域の人々、友達がかかわってくれたお陰だと思っています。

このような子どもたちとの時間をこれからも大事にして、幸せな家族になりたいと思います。



リレ エッセイ 22

岐阜市立本荘中学校PTA

毛利 理恵

娘が選ぶ半不登校生活〜自分らしく生きるために〜

多動傾向があり注意散漫、社交的ですが集団生活が苦手な長女（専門1年）。感受性豊かで、感情表現が苦手な次女（中学3年）。2人の娘がおります。

長女は、小学生の頃から注意を受けることが多く、思春期には劣等感を持つようになりました。劣等感を感じる中で先生からの指摘は辛いものだったと思います。高校に入り、友達との壁をつくり、学校を休みがちになります。

また、次女においては、中学2年生から徐々に学校を休むようになり、中学3年の現在は、週に1〜2回休み、登校する日のほとんどが3時間目からの登校です。

学校へ行くのは辛い。でも、休んでいるとダメな自分になってしまう気がすると言いつつ、葛藤しながらの登校。先生方はそんな娘の状態を理解し、あたたかく対応してくださっており、次女は「こんな私に比べて優しくしてくれるのかと思うと泣けてくる」と言います。半不登校になったことで、葛藤しながらも沢山の愛を感じられる、娘の人生において貴重な経験をいただいています。

次女は中学卒業後、通信高校に行くこと決めました。正直私は普通高校に行つて欲しかったです。しかし、「なんでママは普通高校に行つて欲しいの？私私らしくいられる高校に行きたい」という次女の強い思いを聞き、ハッとさせられました。

自分らしさを見失い、生きづらさを抱える大人にならないよう、その子らしさを尊重してきたはずなのに、高校進学においては自分の価値観を押し付けようとしていたことに気付かせられました。

我が子のいいところを親が認め、伝え、信頼することで、幸せに生きる力を育み、自分の良さを活かす、社会に貢献できる大人になると思います。

現在、長女は自分の望む専門学校へ行き、得意分野で才能を発揮し、夢に向かって、伸び伸びと自分らしく、充実した学校生活を送っています。

自分の意思をしっかりと持ち、自分のペースで道を選んでいくことができる次女の未来も楽しみです。



PN. ばんび (可児市)



PN. 照 (揖斐郡)

question ①

出題・中村 心音 (岐阜市)
〈答えは41ページ〉

私のお腹の中にある木は
何でしょうか？

母から教わったこと 子育て半生記

各務原市立蘇原第二小学校 PTA会長 酒井 詩織

3人の息子たちに囲まれて慌ただしく過ごす毎日の中で、ふと思いつくのは母の存在です。12年前に他界し、当時、私のお腹の中にいた長男は12歳になりました。

「人生最大の悲しみ」と「人生最大の喜び」これが私の子育ての始まりです。

小2でスポ少に入り、高校までバレーボールばかりしていた私は、どれだけ母に支えてもらっていたかわかりません。野球をする弟との送迎や応援の両立は大変だったと思います。壁にぶつかった時には、真剣に話を聞いてくれて、私を信じてくれました。そのおかげで大切な仲間と出会い、かけがえのない時間を過ごすことが出来たのです。迷った時は、いつも優しく背中を押してくれたように思います。

また、料理やお菓子作りを一緒にする時間が、私は大好きでした。夏休みの宝物作りでは、裁縫が得意な母のもと、エプロンやタペストリーを作った思い出もあります。楽しむ時は、一緒に全力で楽しむ人でした。

そんな母が倒れたのは、私が高校生の時です。入院や手術を繰り返し、約5年の闘病生活を送りましたが、再び笑えい合える日はありません

今では3人の息子たちの母となり、くだらないことと笑い合い、怒ったり泣いたり、毎日を楽しんでいます。この先も息子たちが、何かに迷い立ち止まった時には、優しく背中を押してあげ、時にはそっと見守り信じてあげられるそんな存在でありたいです。今この一瞬は二度とこない、人生いつ何が起るか分からないことを私は知っています。当たり前が当たり前でなくなる時、踏み出さなかったことを後悔しないように、自分を信じ、周りを信じ前に進んでいって欲しいです。

私が母と過ごした時間や、教わったこと、感じてきたことは、これからも息子たちに伝えていきます。そして、あつという間に終わってしまうであろう子育ての一瞬一瞬を大切に楽しみます。

でした。当たり前前に良くなるものだと思っていた私は、日々変わっていく母の姿をなかなか受け入れることが出来ず、現実から目を背けるように就職と同時に出ました。もっと近くにいてあげていれればと、してあげられることはたくさんあったはずなのに、自らの時間を削ってしまったことは、今でも後悔が残ります。まだまだ話したいことも、一緒にやりたいこともたくさんありましたが、叶わぬままの別れになってしまい、これが私にとっての人生最大の悲しみとなりました。

そんな悲しみの中で少しずつ前を向けたのは、お腹の中で元気に動き回る息子の存在でした。私を必死に支えてくれるように感じ、小さな小さな命がどれだけ心強かったかを覚えています。

母を失ってから4か月が経ち、元気に誕生してくれたことは、私にとっての人生最大の喜びとなり、息子のおかげで、私は強くなれるそんな気がしました。そこから始まった子育ては、愛しただけではなく、壊れてしまいそうなほどの小さな命を育てることの大変さや、親になるということの責任の重さを感じました。まだまだ未熟な私を息子が少しずつ母親にしてくれたと思います。

まさか、私がわが子のあゆみの執筆作業をする日が来るなんて思ってもみませんでした。このPTA活動を通して、色々なことを考えさせられるきっかけになりました。学校の先生、地域の方々、多くの方々に支えていただき、今の子どもたちの笑顔があると改めて感じました。正直、不安で仕方ない始まりでしたが、携わらせていただいたことに心から感謝をし、私も今できることをやっていきたいです。未来へとつながる子どもたちの笑顔が、この先も溢れる日々でありますように。





地域の子どもたちを地域で育む

山県市立伊自良北小学校PTA

「今日のお話はみんな聞いてくれるかな。」

子どもたちのぬくもりが残る玄関をくぐると、教室から、子どもたちの歓声が響いてきます。

校長室にお邪魔し、学校のことで話が一番盛り上がるころ、1、2年生の子たちが、「失礼します。お迎えに来ました。」と呼びに来てくれました。

私たちは、地域の読み聞かせサークル「おはなしピーチク」として、子どもたちに読み聞かせを

行っています。コロナ禍で、やむなく中止となった期間もありましたが、ほどなく再開し、この朝の15分間を、とても楽しみにしています。1週間おきの火曜日が基本で、令和3年度は、15回ほど実施できました。

2階の教室まで、一緒に歩く間、いろいろなお話が弾みまます。1、2年生の子たちなので、本が大きいと、その袋に、すっぽりと入りそうです。自分の孫と一緒に歩いているような気分です。

住んでいるところや、おじいさんや、おばあさんの名前を聞くと、よく知っている方だとわかり、また、話はずみ、親近感がぐっと湧いてきます。教室に到着すると準備ができていて、教室の真ん中に案内されると、早速読み聞かせの始まりです。

紙芝居や、大型絵本、そして、普段子どもたちが自分から読むことができない、めずらしい本もあります。子どもたちは自分では読

まないジャンルのお話の世界に興味津々です。子どもたちの姿勢も思わず、前のめりになり、20の瞳の見つめるところは一つです。

今回は、運動会のお話でした。10月は、運動会の季節だからと選んでみました。この本を、運動会の練習をしている子どもたちに聞いてもらおうと思います、思わず、本屋さんで買ってしまいました。運動会が嫌いだけど、がんばろうというお話でした。運動会は楽しみだけけど、ドキドキしている子どもたちの心に染み入るお話になったのでしょうか。

その前は、自作の紙芝居でした。大きな分厚い画用紙に、クレパスと水彩で絵を描き、ふちをマスキングテープで補強し、裏に台本を書きました。授業参観で自分のいいところを発表しなくて

はいけないんだけど、見つからなくて困っていたら、先生が助けてくれて、うれしくなったというお話でした。

読み聞かせサークルの仲間の集まりが、毎月1回あります。みんなが集まり、子どもたちが好きな本を交流したり、実際に読み聞かせをし、お互いに聞き合ったりして、本番を想定して練習します。仲間から読み聞かせの術を学び取ったり、コツを教えたり、テクニクの共有が大切です。どの学校にいつ、だれが行くかを、相談します。

ここまでたどり着くには、7年程かかりました。近くの学校の校長先生の理解もあり、読み聞かせが始まりました。その他の学校や、保育園にも紹介してもらい、訪問する場所が増えると共

いつの間にか仲間も増え、最初は7人だった仲間が16人になり、今では6箇所を読み聞かせに行っています。

そんなことから あつという間に30年がたちました。ある日、近くのコンビニで買い物をしてると、

「〇〇さんですね。僕は小学生の時に読み聞かせしてもらいました。」
と、高校生ぐらいの立派な男子に声をかけられたことが、最近のうれしかったことです。

「地域の子どもたちを地域で育む」何年たっても、それは、色あせない思い出として、いつまでも子どもたちの心の中に残り続けるとうれしいです。



本当の親の背中

養老町立養北小学校

PTA会長 高木 治男

私の家族は、両親と私たち夫婦、そして3人の子ども、兄2人は結婚して子どももいます。いちばん下の子どもは小学6年生にして「おじさん」というわけです。とても仲の良い3人兄弟です。兄2人は外に出て生活をしているので、今現在は5人家族になります。

養北小学校では、夏休みの間に、校庭などに伸びきった雑草や庭木の枝切りなどを、始業式の数週間前に、養北小クリーン活動として、6年生の児童とその親とで毎年行っています。今年は、あいにくの雨で、外での作業はできず、校舎内の作業になりました。日頃できない窓ガラスの掃除、特に、サッシのレールの溝、数年間たまったその汚れは、それは酷い物でした。私たち3人は、その汚れを、濡らした雑巾で何回も何回も拭き

取りました。最初は、話をしながら楽しく

作業をしていたのですが、気がつくとも無言になってひたすら手を動かしているんです。動かせば動かすほどキレイになっていくレールが気持ちいいみたいです。親は子どもの姿を見ながら、子どもは親の姿を見ながら、親と子が1つの作業をする。作業終了時間がきたときには、疲れよりもやりきった喜び、キレイになった気持ちよさ、そんな中に小さな幸せさえ感じました。クリーン活動は、ただ親子で学校をキレイにすることだけではなく、もっと奥深い考えのもと、意義のある活動の様な気がします。

今回、「親の背中」という執筆依頼をいただきました。子は親の背中を見て育つ、また、子は親の鏡ということわざがあります。毎日の生活の中で、子どもは意識することなく親から様々な事を吸収しています。毎日の生活の中の、親の行動、言動がそのまま子どもは、それが良いものだと思ってしまうという事です。その子を見れば、どんな状態でした。やっとのことで私の番になり、一番奥の場所が空いていることに気づいたので、その場所へ入ろうとしました。すると、そこは汚されていて、だれもそこを使おうとしなかったため空いていたのでした。私も、そこは避けて次に空いたところをおうと思ひ、次の番である母に

親の姿が子の姿

美濃市立昭和中学校

PTA本部役員 杉下 純子

子育てに関することわざで、「なるほど」というものがあります。それは、「子どもは親の背中を見て育つ」です。親の言葉からだけでなく、毎日の生活の中で、子どもは意識することなく、親からさまざまなことを吸収していきます。

とは言え、私が自信を持って示す「背中」が、子どもに伝わっているのかというところりません。今では親の立場の私ですが、私が子どもだった頃を思い返してみても、「親の背中」を意識していたとは言えなかったと思います。しかし、強く心に残っていることがあります。

それは、私が社会人として働き始めた頃のことです。家族全員で京都旅行へ行ききました。清水寺でお土産を買い、帰路に向かう前にトイレにしようと並んでいました。個室の数が少ないせいか、かなりの人数が並ん

な親なのか分かってしまうという事です。

怖いもんですね。だからといって、親が意識して接する事なく、自然体で毎日の生活を送っていればいいんです。親だって失敗したり悩んだりします。そのありのままの姿を投げやりな形ではなく、堂々と見せる事が「本当の親の背中」を見せるという事。とにかく、諦めず必死でがんばっている一生懸命な姿を見せる事が大切なのだという気がします。

子育ては、親が子どもと一緒に成長していく過程なのだと思っています。



親がいくら子どもに立派な言葉をかけても、親の日々の生活がいい加減なものなら、何の説得力もありません。親自身が姿を子どもに見せることが一番だということですが、

普段の生活を振り返ると、子どもたちに対して、ついつい口うるさくなっている私です。恥ずかしながら、今は「親の心子知らず」のことわざがびったりな状態です。しかし、「親の姿が子の姿」となることを、いつも心にもちながらまだまだ続く子育てに向き合っていこうと思います。「ありがとう」と「ごめんなさい」この言葉を大切にできるように、「親だから、大人だから…」で済まさず、子どもに対して間違ったことをしたときは「ごめんね。」を、嬉しいときは「ありがとう。」をきちんと伝えるようにしていきます。親子げんかもなかなか絶えないのですが、子どもとともに親として成長していきたいと考えています。

「ここは、汚れているから使えないよ。」

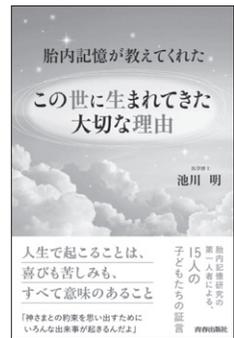
と話しました。私は、母が次に空くまで待つかと思ったら、母は奥にある掃除道具入れから、ブラシを取り出し、汚れたところをサッと掃除しました。そして、その個室を利用し出てきました。その後は、何もなかったかのように並んでいた人たちが順にトイレを利用していきました。母に、「すごいね。自分の家でもないのになかなか掃除はできないわ。」

と話すと、母はにっこり微笑むだけでした。母は、「人のためになることは進んでやりなさい。」などの言葉は言ったことはありません。しかし、母の姿はいつしか私の行動の後押しになっているのだと気づかされました。



胎内記憶が教えてくれた
この世に生まれてきた
大切な理由

著者：池川明
出版社：青春出版社



私がこの本と出会ったのは3年ほど前で、最初は『この世に生まれてきた大切な理由』というタイトルに目を惹かれました。そして、筆者の池川明さんの本は以前も読

んだことがあり、興味深かったの
でこの本を手にとりました。
筆者の池川明さんは、産婦人科
医で胎内記憶の研究の第一人者で
知られている方です。この本は、
15人の子供達の胎内記憶によつて
わかった生まれる前のこと、そこ
からのメッセージなどが書かれて
います。

子供達の話によると、生まれる
前は雲の上において、そこは居心地
のいい場所。でも穏やかすぎてあ
まりにも退屈なので、子供達は波
乱万丈な人間界は大変なことが多
いけれど、刺激があつて面白く魅
力的なのだそう。

以前、子供と読んだ絵本で、雲
の上にいる子どもたちが下を見て、
お母さんを選んでいるといってお話
を見たことがあつたので、絵本の
中のような感覚を感じました。

そして、多くの子供達の話に共
通しているのが、「生まれることは
自分で決めた」ということです。
人生のシナリオも自分で決めてく
るそうです。自分で親を決め、自
分の人生を決めてくる。寿命や試
練も自分で決めるそうです。

ちょうど、その時の私は困難に
ぶち当たつていて、何も手につか
ないくらいやる気を失い、何故こ
んなに辛いのだろうと感じていた
のですが、この言葉に強く心を動か
され気持ちに変化が生まれました。

本の中で印象に残つたのは、「人
生で起ころうことは喜びも苦しみも
すべて意味があること。イヤだと
思うこと、つらいことこそ『学び』
で、自分が生まれる前に決めてき
たこと。」という言葉です。

辛いことはどうしても避けたく
なつてしまふけれど、そこから、
様々な感情を感じ、それを乗り越
えて変わっていく過程で人間は成
長する。辛いことが起こつた時に
は避けるのではなく、『学び』の
時なのだと思つて向き合つてい
けば、自分自身もつと成長でき
るのだと納得しました。

雲の上の記憶によると、子供達
は生まれることを自分で決め、ど
の時代、どの土地、どのお母さん
に生まれるか、雲の上から降りて
くること自体も子ども本人が決
めます。たましいの世界は、価値基
準がこの世とは違い、のんびり、
ゆつたり暮らすことが幸せではな
いそうです。体験を積み、学び、
成長を遂げることをたましいは望
んでいるようで、チャレンジの多
い人生を選ぶこともあるそうです。

チャレンジとは少し違うかもし
れませんが、私の人生で10代、20
代は環境の変化が多く、時にはそ
れが辛く、地元で育つてきた人を
羨ましく思うこともありました。
私はのんびりした性格ですが、そ
れに反して、たましいはあえて変

て聞いてみると、習い始めた当初
はあまり深く考えず、絵を描くよ
うな感覚で筆を持つていたよう
でした。そのうちにコツを掴み、な
んとか進級してきたようですが、
さすがに段になる頃にはなかなか
上がらず、同級生には置いて行か
れ後から入ってきた子たちにも追
い抜かれていきました。悔しい思
いをしたかに思われますが、次女
曰く「左利きだから仕方がない」
となかなか昇段しないことを諦め、
開き直つていたようです。それで
も辞めずに通い続け、ついに学生
の部の最高段位までたどり着くこ
とができました。左利きだからと
諦めず、左利きでもできるんだと
自信を付けたようでした。そして
習字を通して利き手でない手を使
うことで、細かな作業や楽器の演
奏などにも自信を付けていったよ

化が多い人生を選び、いろいろな
ことを体験して、私自身を成長さ
せようとしたのかなあと思うと、
羨ましい気持ちも忘れ、そういう
考え方も面白く感じました。

ここで、私が紹介したお話は一
部なので、それ以外にもいろいろ
な子供達からの話や温かいメッ
セージが書かれています。読まれ
る方によって解釈や感じ方は様々
とは思いますが、心を動かされる
1冊になるのではないかと思います。
子育てや人生に思い悩んでい
る時にはとても心が癒される本だ
と思うのでお勧めします。

かべのむこうになにがある？
著者：ブリッタ・テッケントラップ
発行元：BL出版

白川町立黒川中学校PTA
安江美咲



赤い大きな壁の上に小さなネズ
ミが1匹。インパクトのある表紙
のこの絵本は、中3の次女が小6
の夏、読書感想文を書くために借
りてきた本です。

高い壁に囲まれた動物たちは長
い長い年月をそこで暮らしていま
す。ある時、1匹のネズミが外の
世界を見てみたくなりました。他
の動物たちは、なんだかんだと理
由を付け、壁の外に出ることを恐
れています。ある日ネズミは、ど
こからかやってきた1羽の鳥に外
の世界を見せてもらいます。そこ
には広い草原のとても美しい世界
が広がるのでした。戻ると驚いた
ことに、あの大きな壁が無くなつ
ていました。そして、あれだけ外
の世界を見ようとしなかった他の
動物たちも、1匹また1匹と壁を
すり抜けて出てくるのでした。と

まあこのような内容でした。絵本
とは言え大人も深く考えさせられ
る本でした。
さて、読書感想文です。正直、
絵本でどうやって「膨らませば」
いいのだろう。借りた方がいいが困
り果てた次女と、まずはこの本の
題材である、彼女の「壁」を一緒
に探してみることにしました。と、
言つても当時まだ12年の人生です。
学校生活で、大なり小なりの「壁」
を乗り越えては来ているのでしょ
うが、これと言つて列記するほど
のものは浮かびません。すると小
2から通つていた習字の塾のこ
とが思い出されました。

次女は左利きでしたが、この塾
の指導で、右手で書かなくては
いけませんでした。利き手でない手
で習字とは：こればかりはかなり
高い壁だったのではないかと改め

て聞いてみると、習い始めた当初
はあまり深く考えず、絵を描くよ
うな感覚で筆を持つていたよう
でした。そのうちにコツを掴み、な
んとか進級してきたようですが、
さすがに段になる頃にはなかなか
上がらず、同級生には置いて行か
れ後から入ってきた子たちにも追
い抜かれていきました。悔しい思
いをしたかに思われますが、次女
曰く「左利きだから仕方がない」
となかなか昇段しないことを諦め、
開き直つていたようです。それで
も辞めずに通い続け、ついに学生
の部の最高段位までたどり着くこ
とができました。左利きだからと
諦めず、左利きでもできるんだと
自信を付けたようでした。そして
習字を通して利き手でない手を使
うことで、細かな作業や楽器の演
奏などにも自信を付けていったよ

うです。本人も知らず知らずのう
ちにいろいろな壁を乗り越えて
いったようでした。そしてまた今、
高校受験というこの時点での人生
で最大の壁を目の前にしています。
この先どんな壁を前にしても、こ
の経験を生かして乗り越えて欲し
いです。そして、その壁の向こう
には、あのネズミが見た色とりど
りの明るい世界があることを願
うばかりです。

かく言う今の自分には、この本
に出でくるクマが言った「壁の向
こうに何があるか」不思議がるに
は歳を取りすぎた」という一言が
重なります。それでも壁を越えた
ネズミの見たあの鮮やかで美しい
草原の絵が忘れられないのです。
まだまだそんな世界を目指しても
良いのかな、という気持ちにさせ
られた1冊でした。

Illustration&Quiz

イラスト&クイズ



PN. 日抱 (揖斐郡)



PN. 木村 ようへい (各務原市)

question

出題：市村 優成 (関市)
〈答えは41ページ〉

1月が一番厚くて、12月
が一番薄くなるものは何で
しょう？

子の思い

楽しいソーラン節

各務原市立八木山小学校

3年 弥吉美佳

9月のスポーツフェスティバルで、3年生と4年生は「ソーラン節」をおどりました。さいしよに4年生がお手本を見せてくれました。わたしは、「本当にできるのかな。」と心ばいでした。だけど、4年生がいてねいに教えてくれたり、「ここをもっとこうするといよいよ。」と言ってくれたりしたので、安心することができました。

本番が近づいてきて、わたしは上手におどれるか心ばいだっだけれど、みんなが「がんばろう。」と言ってくれたので、わたしもがんばろうと思えました。けれど、やっぱりきんちようもして「できるかな。」とも思いました。本番では、しっばいせずにさい後までがんば

れました。「家でも学校でもいっばい練習してよかったな。」と思いましたが、お父さんに「上手だったね。」と言ってもらえて、うれしかったです。すごく楽しいスポーツフェスティバルでした。がんばってよかったです。

企画委員長として

大垣市立小野小学校

6年 久保田華帆

今年、自分自身がとても成長したと感じています。それは、6年生になって、企画委員長になったからです。

5年生までの自分は、挨拶、掃除などのキャンペーンがあっても、あまり意識して動いてはいませんでした。また、委員長になっても、本気でやり抜くぞ、とは思っていませんでしたが、中途半端な部分がありました。そこで、そんな自分を変えようと反省し、企画委員長とし

て、責任をもち、自覚して活動するように努力しました。その結果、先生方や企画委員の仲間達と納得いくまで話し合いをし、いろいろな提案を出していけるまで成長できました。

特に頑張ったのは、運動会のかわりとなる「小野合戦」を成功させるために全力を尽くしたことです。企画委員全員で、スローガン・取組・行う規模などを決めて、先生方にプレゼン動画を送りました。その結果、なんと自分たちで話し合い決めた提案が9割通ったのです。本当に嬉しかったです。そして、小野合戦終了後は、とても達成感や満足感でいっぱいになりました。

企画委員長は、責任重大でつらいこともありました。でも、そこで逃げずに仲間達と共に一つ一つ活動をやりとげること、やってよかったなと思ひ、やりがいも感じられました。企画委員長としての仕事はまだあります。これからも、仲間と協力して最後までやり

とげられるよう、今後も頑張っていきます。

いつもありがとう。

多治見市立北陵中学校

3年 草間新菜

私の家では、使えなくなった物を捨てる時、この言葉を言う決まりがあります。

母の通っていた小学校では「5963」と書いて「ごくるうさん」と読む「5963ボックス」というものがありました。ここには、短くなった鉛筆など、使うことのできなくなった物を入れたそうです。そのときに「ご苦労様」と感謝の言葉を言うことが一番大切なポイントでした。そんな「5963ボックス」から、物を大切にし、感謝の気持ちをもつことを母は学んだそうです。そして今も、母は物を捨てる時に「いつもありがとう。

親の願い

親である喜び

瑞穂市立穂積小学校

PTA 松岡麻美

今年、上の子が小学校を卒業します。話には聞いていましたが、6年間ってあつという間ですね。娘は先天性股関節脱臼(せんでんせいこかんせつだつきゅう)という病気で生まれてきました。生まれつき股関節のはまりが悪く、左足の曲げ伸ばしがスムーズではありませんでした。無事に出産できたとはっ

きつとあるはずです。

物を捨てる時、その物や作って下さった方に対して心を込めて感謝を伝えてみる。少しの意識で行動が変わり、その行動で周囲が変わっていく。私たちの、物を大切に想う気持ち、世界を大きく変えることになるかもしれせん。また、物を大切に想うことは、その物や、作って下さった人を幸せにすることができるのです。私はこれからも、物を大切に想って生活していきたいと思ひます。

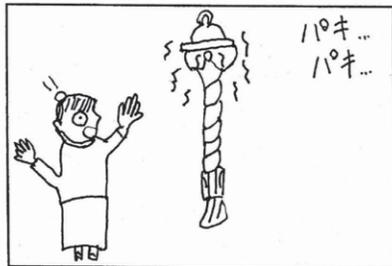
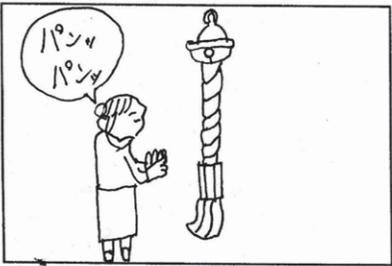
小さな「ありがとう」はいつもあなたのそばに。

としたのもつかの間、主治医の先生に説明を受けたときは、不安でいっぱいになって、健康に産んであげられなかったと娘に申し訳なくて涙が止まりませんでした。けれど、病院の先生方のサポートのおかげで、治療が進み、幼稚園に上がるころには、お友達と外で遊ぶことが大好きな女の子になりました。

そんな娘は中学校では自転車通学です。そのため、先日、自転車を買いに自転車屋さんまで行ってきました。何度も買った自転車も今回がきつと最後でしょう。(こんな大きな自転車に乗るようになったんだな。)と思ったら、自転車屋

県立大垣桜高校
まんが研究部

お参り



逆さ言葉

このらいおん、おいらのこ
(このライオン、おいらの子)

五十川 陽紀 (損斐郡)

さんで目がうるうるしてしまいました。

子どもの成長を見られるのが親の幸せだとよく言いますが、本当にそう思います。頭がいいといいな、足が速かったらいいな、と、親はときに子どもへの期待を膨らませてしまうことがあります。いろいろなことができたならそれはとても素晴らしいことですが、元気で幸せでいてくれること、これが一番のわたしの願いです。かけっこができないかもしれないと思っていた娘が、こうして大きくなってお友達と楽しく学校生活を送っていることは、決して当たり前ではないということとを、いつも胸に置いておきたいと思っています。

どんな中学校生活をおくるのかな？どんな進路を選ぶのかな？どんな素敵な女性になるのだろうか？これからも、娘の成長を見守っていきたくて、どんな大人になるのか本当に楽しみです。子どもたちには、やりたいことを見つけたら大

きなことでも、小さなことでもどんなやつてほしいです。子どもたちのサポーターとして、親という特等席で応援できる喜びを目いっぱい感じたいです。今、こんなにも彩りある幸せな人生になっているのは、間違いなく子どもたちのおかげです。これからも子どもたちとともに、日々の生活を大切にしていきたいと思います。

PTA活動や自治会活動に携わっており、多くの地域リーダーとの関りも出来ました。しかしここ2年程は、コロナ感染防止という事もあり、行事という行事が中止や自粛となり、地域の方々、保護者や子どもたちとの交流も満足に出来ない状況となっています。そんな中、最近では地域の見守り活動や安全活動の方法が維持出来なくなってきた事を耳にするようになりました。

子どもと地域のつながり

岐阜市立岐阜西中学校

PTA副会長 山田 喜美子

私には3人の男の子がいます。男子はお年頃になると、中々親との会話をしてくれなくなりますが、でもどの子も私にとっては自慢の子で、忙しい家族に代わり地域行事のお手伝いも積極的にやってくれ、地元では「ありがとう」の声をかけていただけです。私も縁があつて長年、

「わが子のあゆみ」の投稿の機会をいただいたので、私が地域やPTA活動・学校との関係がこうなっているって欲しいという思いを述べたいと思います。

いろいろな役員を決める時、「誰かがやってくれる」「めんどくさいな」こんな声は誰もが思っている声だと思えます。でも一人一人がちょっとした参加の気持ちを持って、出来る範囲で短時間の参加をすれば、一人の仕事量を減らし個人負担も軽くする事が出来ます。結果とし

その子どもを再び教えることができ喜びを感じました。かつての教え子に話しかけられるのは、教師になつてよかったと感じられる瞬間です。ところが、最近は、教員志望者数がどんどん減ってきています。長時間勤務、保護者対応を避けているのかもしれない。このまま、志望者数が減り続けたら、よい未来社会を創る人材を育てるはずの学校に優秀な人材が集まらず、よりよい社会を創るという責任を果たせないのではないかと不安になります。

退職が近づいてきた今、これまでの教員生活を振り返るようになりました。担任時代は、教え子の成長

で、誰もが参加しやすい環境が生まれ、無理強いを押し付け合う事もなくなるかと思えます。

そしてもう一つ、今学校の教育力リキュラムの一つに地域貢献活動というものがありますが、私は将来の高齢化・高情報化社会に向け、どんな時にも自発的に活躍が出来る人材に子どもにはなって欲しいと思っています。人と同じ事を揃えてやるのも大事ですが、自分の意見を表現したり、それに合った手段を見つけ、引張っていく力は、将来の社会生活にも役立つ事でもありません。今は私達が育った頃とは違い、隣近所の人でも顔を合わせないで済んでしまっている社会です。顔もマスクというお面がある事により、お互いの感情をくみ取って物事を判断する事は容易ではなくなりました。人と人の関りが薄くなりながら、これからはAIといったバーチャルの世界との共存も必要です。だからこそ、今のうちに夢や自分の希望を大きく立て、実現に向けて

私たち保護者も常にたくさんの方に目を向け、地域が一体となり子どもたちのやりたい事をもっともつと応援していければと思います。

教育の窓

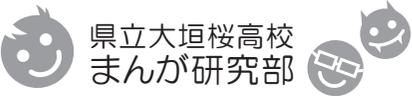
先生になりたい子を育てる

大垣市立静里小学校

教頭 市川陽一

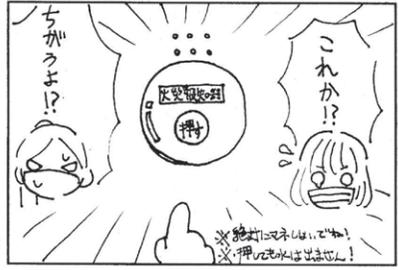
入学式で、保護者から「お久しぶりです。」と挨拶をされました。ずいぶん前に勤務していた中学校での教え子でした。教え子が親になり、

の努力を惜しまないで欲しいと思います。授業も部活動も、「出来ない」「は」次のチャンスまで時間があ「と考えると、常に前を向いて進んでいきます。保護者も一緒になつてチャレンジ精神を持ち、授業でも出来ない実験や実体験を、地域・家庭・学校の領域を超えコミュニケーションが出来れば良いと思います。学校とは子どもがいる期間しか関りを持つ事が出来ませんが、地域で上手に関りを持てば、子どもたちを長い期間で守る事はもちろん、誰もがより多くの子どもたちに触れ合う事も出来ます。」子どもは地域の宝」という言葉があるように、



県立大垣桜高校 まんが研究部

なぜ予防はしっかりと！



逆さ言葉

かるいきひんなこねこ

(軽い貴賓な子猫) (子猫何匹いるか)

赤堀 晴輝 (岐阜市)

てからは、勤務校の先生方の幸せと学校に通う子どもたちの笑顔を創り出せる学校にしたいと考えるようになりました。

今年も、教育実習の時には、やる気に満ちた先生が来てくれました。子どもたちと遊んだり、教えたりする中で、教員の楽しさを改めて実感できたようで、毎日、「先生は、楽しいです。勉強になります。教員になる決意がますます高まりました。」と言ってくれました。今年も教育実習は、成功したと感じました。

先生が教えることに喜びを感じ、毎日、生き生きと子どもと接することで、子どもたちが担任の先生に憧れをもち、将来、先生になりたいと思ってもらえたらなんと素敵でしょう。若い先生を学校で育てるだけでなく、子どもたちに、「将来、担任の先生みたいな先生に自分もなりたい。」と思ってもらえる学校を創ることが教頭の仕事だと考えています。

教師を目指さなかった息子たち

関市立旭ヶ丘中学校

校長 古田 齊

教師生活も35年を超え、あとわずかまで定年を迎えようとしている。これまで様々な苦難を味わいながらも、大きな使命感とやりがいを感じながら働き、今では「この仕事に就いて本当に良かった」と振り返ることが出来る。それほど素晴らしい仕事だと思いつながら、私はそれを家族にうまく伝えられなかった。そう思うのは、私には二人の息子がいるが、将来の仕事について話題にするとき「教師にはならない」「ことが前提となっていたからである。教師を目指そうとしている若者たちに触れ合うたびに、「わが子も教師を目指していたらなあ」と思う。一度、長男にその理由を聞いたことがある。「お父さん大変そうだから。」自分の取り組んできた後ろ姿がただしんどいだけの様子に見え

ていたようだ。そう思うと、仕事について息子たちとしっかり時間をかけて話したことがなかったと今更のように反省する。

そんな私が息子たちに関わる際に買っていることが一つある。それは、「本当に自分のやりたいことを見つめる」それを応援することである。言い換えると、「親の気持ちを押し付けないこと」である。とは言いつながら、息子たちは逆に親の思いを汲み取り大学に進学した。案外心配いらぬものだと思われつつあった。ところが、最終的に自分の仕事を選択する際、二人の息子たちは、私の戸惑いを隠せない選択肢を選んだ。長男は「自分の好きな商品を扱う小売業界」。次男は「面白いクリエイターを目指すフリーター」。さすがに私も認めてい

かは分からない。けれども、長男からは「自分のやりたいことを認めてくれてありがとう。」と言われ、これ以外の方向はなかったのだと改めて感じさせられた。次男の方は、やりたいことがいろいろ変化しそ

うではあるが、一度しかない人生を思う存分生きてほしいと願う。二人はそれぞれで自分の生活を自分自身で営んでいる。自分のやりたいことに向かう生活は、多少不便なことがあっても苦にならないようだ。先日、義父の法要で帰省した二人は、3年前に比べ随分たくましさを増していた。先行き不透明な今の時代に、自分で道を切り開いていこうとする力は、自分の好きなことや、自分が本当にやりたいことが大きなエネルギーになることを、わが子から学んでいるような気がしている。

父のお願い

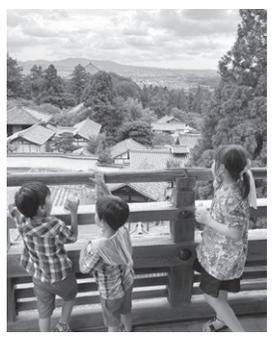
恵那市立大井小学校PTA会長 北原 茂昭



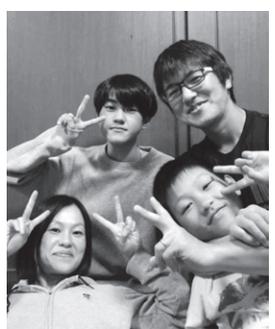
長子である小学校3年生の子と私には、本人が未就学児の頃から続いているあるお願いがあります。それは「自分の好きなことをするのは、学校での宿題だけでなく、父からのお願い（問題集1枚）を実施した後であること」というものです。

これには「授業が分からなくなることで学校生活そのものに興味を無くしてしまうことを防ぐ」だけでなく、「自らの力で自分の時間を作る」という意図もあります。

実施するか否かは本人に任せているため、下校後直ちに終え、好きなことを長時間行う日もあれば、終日終えることなく就寝する日もあるなど濃淡こそありますが、今のところほぼ毎日実施しています。宿題に加え「お願い」があるため、本人は面倒かと思いますが、このプラスのハードルを礎として有限である時間を「自らのために有効に使う」ということを身に付け、ひいては主体性を持つ人格に育っていただきたいと願っています。



話そう!語ろう! わが家の約束



我が家には、生活習慣やSNS機器の使用などについて、以下のような約束があります。

約束1 スマホなどのSNS機器は、夜10時半以降は使わない

約束2 家の仕事は、必ず一人1つ以上はやる

また、本校の他のPTA役員の中には、次のような約束を子どもと話し合っている家庭もあります。

- ・学習するときは、スマホやタブレットを見るところに置かない
- ・スマホなどのSNS機器は、使用后（寝る時）はリビングに置く

この他にも過去には、「学習や読書を行った時間と同じ時間だけ、スマホやゲームを使ってよい」というユニークな約束を作っている家庭もあったそうです。

どんな約束がよいのか、正しいのかは難しい問題です。正解というものはないので、何のために使うかや、「何のために約束をつくるか」を親と子どもで話し合い、自分でよりよい生活のために約束を決め、管理するようにしていくことだと思います。

飛騨市立神岡中学校PTA会長 岡田 正男
子どもの成長を願って



旭小学校は可児市南部に位置し、校区には森や田畑が広がっています。

今年、市制40周年を迎える可児市には、世界に誇るバラ園、ぎふワールド・ローズガーデンがあります。また、多くの古墳や山城跡が残り、美濃焼の聖地としても知られ、歴史を感じさせる市でもあります。

旭小学校は、今年度から学校と地域住民が力を合わせて学校運営に取り組むコミュニティ・スクールになり、地域と共にある子育てによりいっそう力を入れていきます。

では、旭小の生活科や総合的な学習の学びを紹介します。

1年生は、地域の野菜名人を招き、サツマイモの苗の植え方を教えていただきました。児童たちは、秋に収穫できるのを楽しみに世話をしました。地域の人と対話しながら作物を育て、食べる喜びを通して地産地消の考え方も学んでほしいと思います。

2・3年生は、校区にある海印寺の見学に出かけます。ここでいろいろな時代の宝物を見学したり座禅を体験したりしました。背筋が伸び、目を輝かせて活動をしました。

4年生は、伝統工芸士を講師に招いて、陶芸体験をします。美濃焼の歴史を学び茶碗に絵付けをした児童は、伝統の奥深さ、技術や作品の美しさに感動し、もつと本物に触れたいという意欲にあふれています。

さて、ここで学校の宝である「えがおの森」を紹介します。

えがおの森は、地域の団体から貸していただいている学習支援林です。全学年が利用し、自然を生かした活動で学びます。4年生では、森でシイタケの菌打ちをし、収穫することを楽しみにしています。5年生では、森林インストラクターや森の管理をしている財産区管理委員を外部講師に招いて、森林の役割の講話を聞き、①遊びコース②環境整備コース③生き物コースの課題を選択し、課題を追求します。その中で、森にチップをまくなどの環境整備活動や木を利用した遊びを体験します。森で様々な生き物を見つけて驚くこともあります。このようなかけがえのない体験を通して、自然の恵み、豊かさを体感し環境への意識を高めてほしいと思います。

6年生では山城や古墳の見学をしました。可児市には、10の山城がありますが、整備されて入れるのは、6つほどです。校区にある今城址を「今城址を整備する会」の方々の案内で見学しました。今城は、小さいながらも土塁や切り岸、柵形虎口などの機能が全部残っているのです。子どもから年配者まで見学しやすい城です。見学後の児童は社会科で学ぶ歴史を実際に体感し、500年前に思いをはせながら俳句を詠みました。様々な体験の中で、児童は仲間の個性を認め合い、地域の方々と関わり合いながら主体的に学んでいます。感動とともに、ふるさとを大切に思う心や誇りをもって成長していつてほしいと思います。



▲【今城見学】
6年生は、校区にある今城を見学しました。案内は、「今城址を整備する会」の地域の方々です。



▲【美濃焼を知る】
講話を聞いた後は、自分だけの茶碗に絵付けを体験しました。



▶【学習林「えがおの森」】
5年生が森林インストラクターから森について、説明を聞きました。えがおの森では、全学年児童がそれぞれの活動を行いました。



◀【サツマイモ苗植え】
1年生が、地域の野菜名人に教えていただき、「大きくなってね。」と話しかけながら、苗植えをしました。



▲【ぎふワールド・ローズガーデン】
社会科で可児市について学ぶ3年生がきれいに咲き誇るバラ・コスモスを見学しました。



◀【座禅体験】
古くからあるお寺の所蔵物を見学し、座禅の体験をしました。

地域の宝(人やもの)から学ぶ ふるさと



中津川市立福岡小学校は、中津川市の北、ニツ森山のふもとにある全校児童155名の学校です。令和4年度末、150年の歴史に幕を下ろして閉校し、同じ福岡町内の下野小学校・高山小学校と統合して、新しい福岡小学校として開校する予定です。新しい学校の教育目標は「ふるさとを愛する子」。その目標通り、地域の方々に支えられた福岡町の下さや自然に触れる活動がたくさんあります。

新校舎建設現場で三小学校の交流

建築が進む新福岡小学校の工事現場で、統合する三小学校の交流会を行いました。校舎をつくる材木ができるまでの映像を体育館で視聴し、建設に関わっている方の話を聞く「木を学ぶ」コーナー、建設工事が出た柱の端材(校舎のかけら)でコースターを作る「木に触れる」コーナー、設計・建設業者の方の案内で建設中の建物の中を見学する「木を見る」コーナーを体験し、来年春から一緒に学ぶ仲間と共に、新校舎の完成に期待を膨らませました。

校舎を造る材木ができるまでを映像から学びました



柱の端材にマジックで絵を描いたり焼きペンで模様を付けたりしてコースターを作りました

建設中の校舎内を見学しました
木造校舎の耐震の工夫も教えてもらいました



山の上から現福岡小学校と建設中の新福岡小学校が見えました

林業を学ぶ山の下刈り

現在建築中の新校舎は、福岡地区で育った木をシンボルツリーとする木造建築です。そこで、新校舎に使われる木の育ちを支える仕事を知るために、4年生が地元の山林でヒノキの成長を助けるための下刈りを体験させてもらいました。市の森林組合と福岡町の林業研究クラブからの講師の方が、鎌の使い方や草の刈り方を教えてくださいました。



こんなに大きくて長い鎌で草を刈ります

山の働きや、木の苗が建材になるまでについて学習しました



ヒノキの子どもが成長中です
その周りの草を刈りました



この地域にしか見られないという野生のハナノキです



始めはなだらかな道でしたが、後半は岩をよじ登るような急な坂道になってきました



ニツ森山の西森山の頂上の岩の上に立ちました



卒業記念植樹をし、一人一人が少しずつ土をかけました



倒す方向に合わせて、チェンソーで切る位置や角度を調整する伐採の技術を見せてもらいました

ニツ森山登山

6年生は、この地域のシンボル、ニツ森山の登山をしました。事前に、福岡区長さんに、ニツ森山の地形や自然、そして歴史、町の産業について授業をしていただき、福岡の町を守ってきた地域の方々の思いや、町のよさを学びました。山頂には、これまでの卒業生の名前が刻まれた登頂記念板があり、この登山活動の歴史を感じました。卒業記念の植樹や、ヒノキの伐採の見学もしました。ふるさとを大切にできた方々の思いを心に刻む体験になりました。

卓球部



卓球部では、全員が楽しんでプレーすることを大切にしています。チームの課題をもとに、自分たちで練習内容を考えて、活動に取り組んでいます。保護者や対戦相手に感謝の気持ちをもつことや、礼儀正しい行動をすることなども大切にしています。試合では、最後まで諦めることなく、粘り強く戦うことができました。

吹奏楽部



吹奏楽部は「全員で創る音楽」をテーマに日々活動しています。人数が少なく大変なこともありますが、短い練習時間の中で何ができるのかを一人ひとりが考えて主体的に行動しています。今年は「県大会金賞」という目標を達成することができました。来年はさらに上を目指しながら、全員が音楽に入り込み、聴いた人に楽しさや思いが伝えられるような演奏をしていきます。

駅伝部



駅伝部は県大会出場を目標に夏休みから活動ががんばってきました。見事、男子は目標を達成しました。チーム結成時に比べ、仲間への応援の声が大きくなったり、仲間との勝負心が強くなったりと日々成長しています。走り終わってきつい中でも仲間の伴走をする姿も増えました。大会に向けてさらに国府中学校駅伝部として互いに切磋琢磨し、さらにいい活動をしていきます。応援よろしくお祈りします。

野球部



野球部は「情熱と人情野球」を大切にしています。現在は少ない人数ですが、1人1人が情熱を燃やし、チームの仲間や支えてくださる方の想いを大切にして活動しています。野球部が目指す場所は、「県の頂点」です。秋の大会の悔しさを忘れずに、仲間や支えてくださる方と共に挑戦を続けます。

陸上部



僕たち国府中陸上部には4つのK「感謝」「活気のある声」「気配り」「行動」という目標があり、記録だけでなく人としても成長していくことに力を入れています。いつも自分たちのために働いてくれる顧問の先生や親へ「ありがとうございます」や「手伝います」など感謝を行動で表します。そして誰からも愛される国府中陸上部を目指します。

文化部



文化部では、描画や工作などの作品制作に取り組む、校内に展示をしています。また、先日の飛國祭では、部員全員で協力し、飛國祭のスローガンである「彩虹」をテーマに看板を作成しました。また、国府町文化展など地域でも作品を展示しています。

女子バレーボール部



女子バレーボール部は「県大会優勝、東海大会出場」を目標に、「感謝の気持ち」と「謙虚な心」を大切にしています。練習の中では、一人一人が声を出すことや、練習の意味を考えて取り組むことを意識しています。また、日常生活から「あいさつ」や「礼儀」を大切にして、「誰からも応援されるチーム」を目指しています!

女子バスケットボール部



私達女子バスケットボール部は、2年生3人、1年生6人の9人で活動しています。新チームになり、基礎練習を徹底的に行ってきました。最近では試合が近くなり、チームとしての動きを一人一人が考えながら練習しています。その中で大切にしていることが2つあります。1つ目は一人一人が声を出すことです。2つ目は、キビキビと行動することです。この2つを意識して次の試合でもベストを尽くせるよう頑張っています。

サッカー部



サッカー部が大切にしていることは、素早く行動すること、はっきりと声を出して練習することです。素早く行動することで、限られた部活動の時間内で少しでも多く練習ができて、強くなることに繋がります。声出しもみんなが辛いときなどにする事で、「あの子頑張ってるなあ...自分も頑張らなくちゃ」という気持ちが仲間全体に広がります。それにより集中力、士気が上がり、質の良い充実した練習に繋がります。

今後の目標は、地区大会1位になって、県大会に出場してベスト4まで進出することです。目標に向けて19人で頑張っていきます。

剣道部



剣道部では、「礼儀」「あいさつ」「時間」を大切にしています。「礼儀」「あいさつ」では、誰に対しても、礼儀正しく、明るく大きな声であいさつすること、「時間」では、素早く準備をして充実した練習をすることを心がけています。また、時間がある時に自主練習に取り組むなど、一人一人が課題を改善しようとしています。今後の目標は、「県大会入賞」です。チームとしてのつながりを意識して、一人一人が次につながる試合をしていきます。

私たちのPTA



運動会のお手伝いもします。
写真は6年生のソーラン節



地域の方と交流をする「早田ふれあいデー」
早田太鼓を教わっています。



野外学習での長良川ウォークラリーを
保護者もお手伝い



校庭にあるビオトープ



早田歩道橋除雪隊



早田っ子サポーターの活動
学校での肝試し
保護者や兄弟の本格的お化け役に
怖くて泣いてしまう子がいました。

はじめに

本校は岐阜市の中央を流れる長良川の北に位置し、メモリアルセンター、岐阜清流プラザをはじめとする県の施設に囲まれている学校です。また、県立岐阜商業高等学校や県立岐阜北高等学校、岐阜希望が丘特別支援学校など、多くの学校が隣接する文教地区でもあります。

PTAでは「大きな(わ)で育てよう豊かな心く未来へはばたけ夢をもって！」という目標で活動を進めています。

この3年間はコロナ禍によりさまざまな活動が自粛・中止となったため、これを契機とも捉え、PTA活動を大きく見直し改革を進めました。特に、昨今の共働き世帯の増加に伴い、日中に集まる時間を減らしたり、仕事量を軽減するために、そもそも仕事をなくすという改善を行いました。たとえば、これまでの慣例となっていた年5回の執行委員会の会議を3回に削減、負担となっていた広報委員会の取りやめ、各委員会の仕事内容の割り振りの見直しなど、時代にあった効率的な進め方に取り組みました。一方で、行事などが減ってしまった子どもたちの教育活動を支えるためにPTAとして何ができるかを考え、工夫して取り組んだ数年間ともなりました。そこで、本校PTAの取り組みをいくつかご紹介いたします。

特徴的なPTA活動

■ビオトープ

校内には22年前にPTA・地域の方々の協力を得て造られたビオトープがあり、子どもたちは毎日校庭で自然に触れ合うことができます。PTAではこのビオトープの清掃活動や保全を担ってきました。コロナ禍で集まることができず、この数年はなかなか清掃活動もしづらい状況ですが、美しい木々と小川が子どもたちの心象風景に残るよう、PTAとして今後も守っていききたい活動です。

■早田歩道橋除雪隊

冬の雪の日の早朝、子どもたちが安全に通学できるように地域の方が歩道橋に融雪剤を撒く作業をしてくださっています。ペットボトルに融雪剤を詰めておく作業をPTAで担い、早朝の時間帯が忙しい保護者に代わって、地域の方が15名ほど除雪隊として登録してくださっています。感謝の気持ちでいっぱいです。

■野外学習の肝試し(早田っ子サポーター)

2年前から子どもたちのリクエストで始まった「肝試し」。コロナ禍で校外活動ができなかった年にも少しでも子どもたちに楽しい思い出をと考え、保護者が仮装して学校内で肝試しをする企画を先生と一緒に実施しました。有志の保護者が「早田っ子サポーター」として子どもたちの行事のサポートなどで活動しています。

がんばる子らの 汗と笑顔と眼差しと

郡上市立八幡中学校



ゆかたの着付けボランティア

地域ボランティアの方によるゆかたの着付けのお手伝い。
ありがとうございました！



お囃子クラブによる演奏

1年間学習してきた成果を発揮しました。
郡上おどりの代表3曲を披露。



広がるおどりの輪

全校でゆかたを着て下駄を鳴らしてできた郡上おどりの輪。
笑顔の輪も広がりました。



下駄を鳴らして

郡上の森林資源を使って制作したマイ下駄。
下駄の音がおどりの合いの手になります。



ふるさと郡上の伝統

「郡上おどり」のある町を誇りに思い、私たちが伝統を受け継いでいきます。

機関誌「わが子のあゆみ」
令和4年度 初春号
第74巻4号 通巻474号

発行/令和5年1月1日 岐阜県PTA連合会
〒500-8816 岐阜市菅原町3-3 岐阜県校長会館内
電話/058(262)3257 FAX/058(262)3259
Eメール/info@gifu-pta.jp ホームページ/https://gifu-pta.jp
編集/岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
印刷/サンメッセ株式会社